

福島県教育委員会委託 人権教育開発事業

令和元年度 会津坂下町人権教育

研究成果報告書



坂下中学校

坂下南小学校

坂下東小学校

坂下南幼稚園

坂下東幼稚園

『一つの
学園構想』

会津坂下町教育委員会

目 次

1	令和元年度人権教育開発事業	
	会津坂下町事業実施計画並びに経過・・・・・・・・・・	1
2	会津坂下町人権教育実践の記録	
(1)	幼稚園・小学校・中学校の実践事例	
①	坂下南幼稚園の実践	9
②	坂下東幼稚園の実践	19
③	坂下南小学校の実践	29
④	坂下東小学校の実践	39
⑤	坂下中学校の実践	51
(2)	会津坂下町人権教育実践事例	
①	人権教育推進のための実践例	62
②	会津坂下町人権教育講演会	65
③	会津坂下町基礎学力向上推進会議授業研究会（人権教育授業研究会） ・人権教育講話会	66
④	会津坂下町人権教育研究発表会	68
⑤	hyper-QUの活用	71
(3)	人権に関するアンケート集計結果	73
(4)	資料	
①	「一つの学園構想」リーフレット	82
②	会津坂下町「学びのスタイル」	84
③	人権が尊重される授業づくりの視点と会津坂下町「学びのスタイル」教師のコーディネート『5K』の関わり	85
④	「人権感覚」教職員チェックリスト	88
3	研究のまとめ	89

1 令和元年度人権教育開発事業 会津坂下町事業実施計画並びに経過



令和元年度人権教育開発事業 会津坂下町事業実施計画並びに経過

1 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

互いのよさを認め、尊重し合う子どもの育成

～自分も他の人も大切にし、安心して過ごせる園・学校をめざして～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本町では、足かけ13年に及んだ教育施設適正配置事業が完了し、平成25年度から幼稚園2園、小学校2校、中学校1校の体制になった。再配置されてからこれまでは、特に小学校において、教育課程等の共通性に配慮しながら教育活動を展開してきた。そして、魅力ある学校づくりをより一層推進するために、「一つの学園構想」の具現化に向け、幼稚園－小学校－中学校が相互に連携しながら“一貫性”“共通性”“継続性”のある12年間を見通した「育ち」と「学び」をつなぐ教育に取り組んでいる。

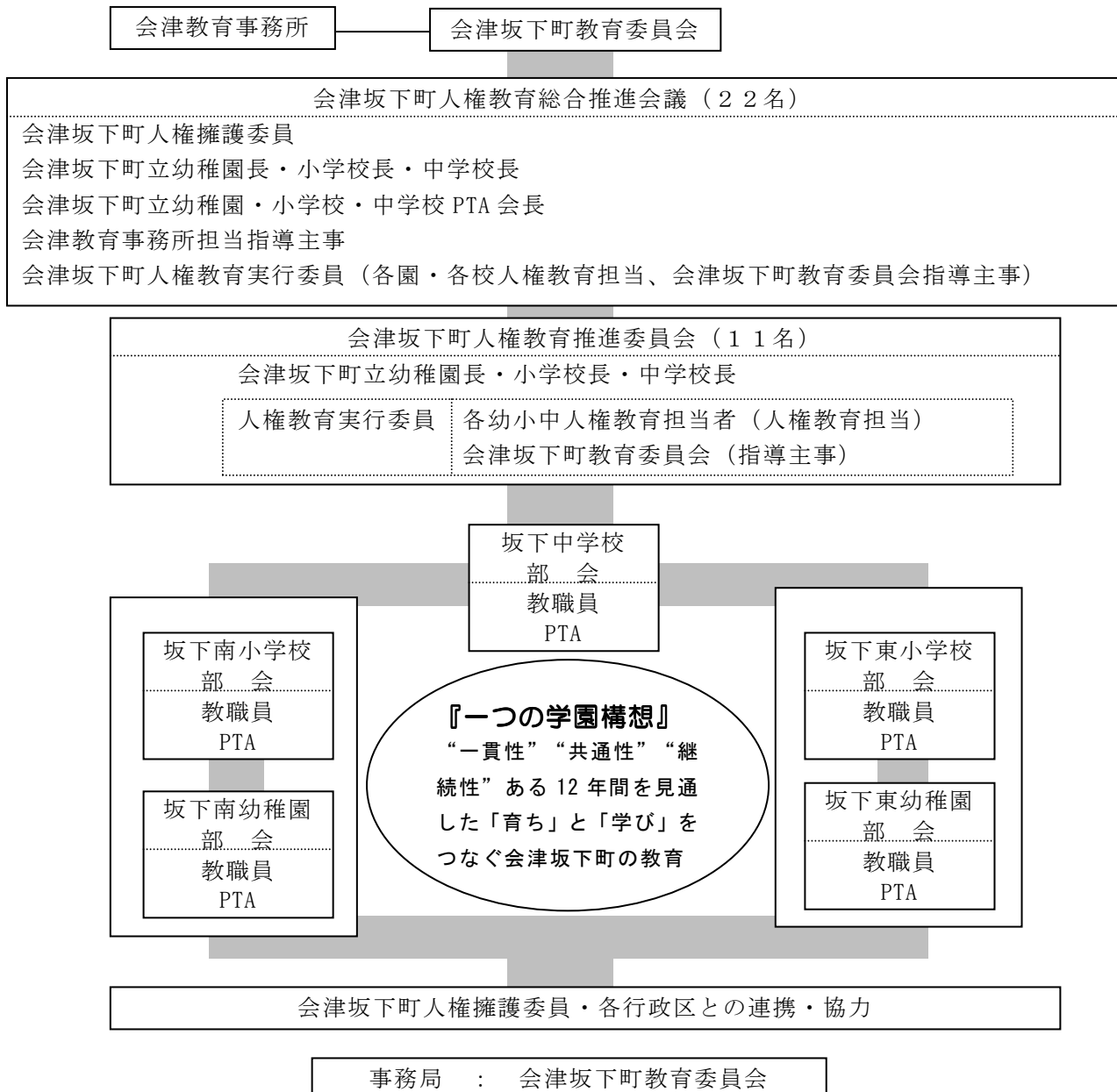
普段の保育や授業の中でも、その取組の一つとして教師のコーディネートによる全員参加型の授業づくりを行い、自分もそして他の人も大切に授業を心掛けている。しかし、自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるために必要な人権感覚は、そう簡単に身に付くものではない。このような人権感覚を身に付けるためには、園や学校生活全体の中で自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを園児、児童生徒自身が実感できるような状況を生み出すことが大切になってくる。それは、子どもたちが一人の人間として大切にされているという実感を持つことができる時に、自己や他者を尊重しようとする感覚や意志が芽生えるからである。

そして、安心して過ごせる園・学校をつくるためには、互いのよさや可能性を認め合えるようにしたり、一人一人が大切にされる保育や授業が行われ、よさや可能性を発揮できるようにしたりすることが大切である。このような園や学校で育った子どもたちは、他の人とよりよく生きようとする態度や集団生活における規範等を尊重して行動でき、具体的な人権問題に直面しても、それを解決しようと実践的な態度として行動するに違いない。

福島県では、東日本大震災に起因したいじめ、風評被害等、人権に係る様々な問題に現在も直面している。本町においても「いじめ問題」をはじめとする人権課題が存在していることから、子どもたちが互いにそのよさを認め合い、自他を大切にする園・学校づくりをとおし、子どもたちが安心して過ごせる園・学校を作っていきたいと考える。そして、家庭・地域とも連携を図りながら、一つの学園構想のもと、「自分も他の人も大切にする人権教育の推進」をめざし、本テーマを設定した。

2 調査研究の体制等

(1) 推進体制



(2) 人権教育総合推進会議の構成

所属・役職、資格、経験等	氏 名
会津坂下町人権擁護委員（金上地区）	個人名 略
会津坂下町人権擁護委員（川西地区）	同
会津坂下町人権擁護委員（若宮地区）	同
会津坂下町人権擁護委員（坂下地区）	同
会津坂下町人権擁護委員（広瀬地区）	同
会津坂下町立坂下南幼稚園・園長	平野 陽子
会津坂下町立坂下東幼稚園・園長	村岡由美子
会津坂下町立坂下南小学校・校長	冠木 誠
会津坂下町立坂下東小学校・校長	神内 透
会津坂下町立坂下中学校・校長	古川 一博
会津坂下町立坂下南幼稚園・PTA会長	個人名 略
会津坂下町立坂下東幼稚園・PTA会長	同

会津坂下町立坂下南小学校・P T A会長	同
会津坂下町立坂下東小学校・P T A会長	同
会津坂下町立坂下中学校・P T A会長	同
福島県教育庁会津教育事務所・指導主事	同
その他 実行委員 6 名 (各幼稚園・各小中学校人権教育担当 5 名、会津坂下町教育委員会指導主事 1 名)	

(3) 推進協力校の概要 (平成 31 年 4 月 26 日現在)

園・学校名	学級数	園児・児童・生徒数
会津坂下町立坂下南幼稚園	8 学級 (年少 3 学級、年中 3 学級、年長 2 学級)	全園児数：179 人
会津坂下町立坂下東幼稚園	7 学級 (年少 3 学級、年中 2 学級、年長 2 学級)	全園児数：127 人
会津坂下町立坂下南小学校	18 学級 (うち特別支援学級 3 学級)	全児童数：386 人
会津坂下町立坂下東小学校	14 学級 (うち特別支援学級 2 学級)	全児童数：306 人
会津坂下町立坂下中学校	14 学級 (うち特別支援学級 2 学級)	全生徒数：397 人

3 調査研究の内容等

(1) 研究仮説

「一つの学園構想」のもと、一人一人が安心して過ごせる園・学校をつくるために、幼稚園、小中学校、そして家庭・地域が一体となって自分も他の人も大切にする人権教育を推進していけば、互いのよさを認め、尊重し合う子どもを育成することができるであろう。

① 安心して過ごせる園・学校とは

- 互いのよさや可能性を認め合える仲間がいる園・学校
- 一人一人が大切にされる保育や授業が行われ、互いによさや可能性を発揮できる園・学校
- 子どもたちにとって心地よい居場所がある園・学校

② 家庭・地域が一体となつてとは

各幼稚園、各小中学校においての家庭や地域との連携はもちろん、会津坂下町「一つの学園構想」のもと、5つの教育施設が連携を図り、それぞれが子どもたちのために一体となること

③ 自分も他の人も大切にする人権教育とは

人権教育とは、人権の精神の涵養を目的とする教育活動であり、人権教育を推進することが、自分の大切さとともに他の人の大切さをも認めることができるということ

④ 互いのよさを認め、尊重し合うとは

互いのよさを認めるということは、自分のよさも大切にしながら、他の人のよさも大切にするのである。互いのよさを認め合うことは、お互いを尊重することに通じるということ

(2) 実施計画及び経過

時 期	内 容	備 考
4 月 5 日	推進委員会 (園長・校長会) ・組織、推進計画等 ・人権教育の在り方についての共通理解	教育委員会 参加者 6 人
4 月 9 日	人権擁護委員によるいじめ防止等の呼びかけ	坂下中全校生

5月10日	弁護士による「いじめと人権を考える」講話	坂下中1学年
5月13日	推進委員会（園長・校長会） ・各園、各校での取組について	坂下南小 参加者6人
5月中旬	第1回ハイパーQ U	小中学校
5月31日	基礎学力向上推進会議第1回チーム会議 ・学力向上チーム、家庭教育チーム ・組織、幼小中連携、会津坂下町「学びのスタイル」の確認 人権教育実行委員会 ・1学期の取組について	坂下南小 参加者90人 （幼小中全職員参加） 坂下南小 参加者6人
6月5日	第1回人権教育総合推進会議 ・今年度の計画について協議・検討	健康管理センター 参加者22人
6月中旬	人権啓発のための花いっぱい運動 ・人権擁護委員のよる講話、花植え 人権作文コンクール参加	幼小中学校 坂下中全校生
6月20日	推進委員会（園長・校長会） ・人権教育講演会、基礎学力向上推進会議授業研究会（人権教育授業研究会）について	坂下東小 参加者6人
6月21日	授業づくり研修会（国語科） 講師：福島大学附属小学校教諭 今野智功 様 国語科示範授業：第3学年「道具を使う動物たち」	坂下南小 参加者90人 （幼小中全職員参加）
7月12日	基礎学力向上推進会議第2回チーム会議 ・基礎学力向上推進会議授業研究会（人権教育授業研究会）「指導案検討会」 人権教育実行委員会 ・1学期の取組と2学期の取組について （アンケート調査、人権教育講演会、研究発表会 等） ・各園、各校の取組についての意見交換	坂下東小 参加者90人 （幼小中全職員参加） 坂下東小 参加者6人
7月16日 ～19日	人権教育指導者養成研修参加	独立法人教職員 支援機構 2名
8月21日	推進委員会（園長・校長会） ・基礎学力向上推進会議授業研究会（人権教育授業研究会）について	坂下中 参加者6人
8月22日	人権教育講演会 講師：法務少年支援センター仙台所長 紀恵理子 様 演題：心をはぐくむ～問題行動の理解と支援～	道の駅 参加者80人 （幼小中職員・人権教育総合推進会議委員参加）

9月 4日	基礎学力向上推進会議授業研究会（人権教育授業研究会） ・坂下東幼稚園、坂下東小学校公開授業 - 学級活動 第6学年「仲裁者になる勇気をもって！」 - 幼小連携・生活科 年長・小2「いっしょにつくろう」 - 算数科 第5学年「整数の性質を調べよう」 - 外国語活動 第5学年「Unit2 When is your birthday?(We Can!)」 ・授業分科会 - 指導助言者 - 福島県教育庁義務教育課指導主事 藤原 謙 様 - 福島県教育庁義務教育課主任指導主事 博多 弘泰 様 - 福島県教育庁義務教育課指導主事 平塚 学 様 - 福島県喜多方市立慶徳小学校長 石田 秀喜 様 - 福島県河沼郡湯川村立湯川中学校教頭 鈴木 雅彦 様 ・人権教育講話会 - 講師：福島県教育庁義務教育課指導主事 藤原 謙 様 - 演題：人権教育の視点から授業を考える ※アニメ「めぐみ」視聴	坂下東幼・東小 参加者90人 (幼小中職員・人権教育総合推進会議委員参加)
9月12日	推進委員会（園長・校長会） ・人権教育研究発表会のスケジュールについて	坂下南幼 参加者6人
10月初旬	意識調査の実施（教職員・保護者・児童生徒）	幼小中学校
10月 8日	授業づくり研修会（算数・数学科） 講師：新潟大学附属新潟小学校教諭 岡田 健 様 内容：授業づくりで大切にしていること 等	坂下中 参加者90人 (幼小中全職員参加)
10月15日	推進委員会（園長・校長会） ・人権教育研究発表会について	坂下東幼 参加者6人
11月 1日	町少年の主張大会	坂下中
11月上旬	第2回ハイパーQ U	小中学校
11月19日	推進委員会（園長・校長会） ・人権教育研究発表会について	坂下南小 参加者6人
11月28日	福島県人権教育推進協議会 会津坂下町人権教育研究発表会 ・坂下中学校公開授業 - 道徳科 第1学年「迷いを乗り越えて」 - 学級活動 第2学年「多様な性について考え、理解しよう」 - 英語科 第3学年「Striving for a Better World」 ・授業分科会 - 指導助言者	中央公民館 参加者20人 坂下中学校 (県内公開：参加者140名)

	福島県教育庁義務教育課指導主事 藤原 謙 様 福島県教育庁義務教育課指導主事 渡部真喜子 様 福島県教育庁会津教育事務所指導主事 佐藤 容子 様 ・人権教育講演会 講師：フリーアナウンサー 大和田 新 様 演題：震災、命、絆	
12月～1月	人権教育のまとめ	幼小中学校
2月中旬	第2回人権教育総合推進会議 ・令和元年度の取組についての報告 ・実践報告書配布(町内及び会津教育事務所管内幼小中 等) ・人権教育リーフレット配布(町内幼小中 等) ・人権啓発カラーホルダー配布(町内幼小中 等)	健康管理センター 参加者22人
2月18日	推進委員会(園長・校長会) ・今年度のまとめと2年間の成果と課題について	坂下中 参加者6人

(3) 調査研究実施方法・検証・評価・普及

- 町内の5つの幼稚園・小中学校において、自分も他の人も大切にする保育・授業を実践するために、5つのK(「**か** 活躍させる」「**き** 共感・共有させる」「**く** 比べさせる」「**け** 決定させる」「**こ** 声を出させる」を大事にした保育・授業の実践を行う。

(検証・評価・普及)

① 公開保育、公開授業時における園児、児童生徒の保育・学習状況の把握

- 公開保育、公開授業時において、参観した教職員・保護者・人権教育総合推進会議員・地域住民に対してのアンケートを実施し、保育、授業を通して園児、児童生徒の人権意識・人権感覚の状況の評価する。

② 意識調査の実施における人権意識や人権感覚の変容の把握

ア 児童生徒に対する人権に関する意識調査の実施とその分析による人権意識の変容の把握(平成30年度と令和元年度の人権意識の変容)

イ 教職員・保護者に対する人権に関する意識調査の実施とその分析による教職員の指導意識と家庭における人権意識の変容の把握(平成30年度と令和元年度の人権意識の変容)

ウ ハイパーQ Uによる要支援児童生徒及び児童生徒への支援内容の把握(年2回実施)

③ 事業実施による成果と課題を実践報告書としてまとめ配付することにより、他地域への普及・啓発を図る。町内においては、幼小中全園児・児童生徒に対して人権教育推進のリーフレットを配布することで、本町の人権教育推進に関する意識を高める。

④ 委託期間終了後も、自分もそして他の人も大切にする授業を心掛けるとともに、各校の人権教育全体計画をもとにして、計画的、継続的に人権教育を推進できるようにする。



2 会津坂下町人権教育実践の記録

(1) 幼稚園・小学校・中学校の実践事例

① 坂下南幼稚園の実践



1 坂下南幼稚園の教育目標

一人一人の幼児が、環境に関わりながら自己を発揮し、主体的に楽しく活動できる子どもの育成
 ○げんきな子 ○なかよく遊べる子 ○考える子

2 人権教育に関する目標

友だちとなかよく元気に遊べる子を育てる
 ○安心して過ごせる園・学校を目指す
 ○地域・家庭が一緒になる
 ○自分も他の人も大切にする
 ○互いのよさを認め、尊重し合う

3 坂下南幼稚園の取組

(1) 実践計画

月 日	内 容	備 考
4 月	今年度の計画作成	職員
4 月～3 月	あいさつ運動 ホワイトボードを活用した予定表の掲示 5 Kを意識した保育の実践	全学年 全職員
5 月～	花植え・栽培活動・地域の人との連携活動 ・花壇やプランターに花を植える ・ジャガイモ・サツマイモ・枝豆・夏野菜の栽培 ザル菊植栽	全学年 5 歳児
6 月 4 日	園内研修 「実践例 1」 ・地域の方に親しみをもってかかわりながら、枝豆の栽培をする	5 歳児
6 月 1 2 日	園内研修 ・ひまわりの栽培に興味や関心を持つ	4 歳児
6 月 2 4 日	人権啓発「花いっぱい運動」 ・人権擁護委員の方のお話と花の苗植え	全学年
6 月 2 8 日	園内研修 ・友達と一緒に活動することを楽しむ	3 歳児
9 月 1 4 日	祖父母感謝会 ・人権擁護委員の方のお話とふれあい遊び	全学年
9 月 1 9 日	要請訪問 授業研究 ・「幼児理解に基づいた評価の在り方」	全学年
9 月 2 5 日	園内研修 「実践例 2」 ・友達と一緒に遊ぶ中で約束やルールがあることを知る	3 歳児
1 0 月 3 日	園内研修 ・運動会に興味を持ちながら活動に楽しく参加する	4 歳児
1 0 月 2 5 日	園内研修 ・遊びの中で友達に自分からかかわり、繰り返し楽しんだり、自分なりの表現を楽しんだりする	3 歳児
1 1 月 1 4 日	園内研修 ・みんなで一緒に活動する楽しさや友達とつながることの良さを感じる	4 歳児
1 2 月 1 7 日	園内研修 ・生活の中で文字や記号に関心を持ち、取り入れて遊ぶ	5 歳児
1 月 7 日	研究のまとめ	

(2) 人権を意識した保育の実践

実践事例 1	「豆博士と一緒に枝豆をまいたよ」 地域の方に親しみをもってかかわりながら、
3 年保育 5 歳児	栽培活動に取り組み、生命の大切さに気付く保育

令和元年 6 月 保育者 藤川 美枝

<幼児の姿>

- クラス構成 5 歳児 27 名（男児 13 名 女児 14 名）
- 年長児としての自覚を持ち、当番活動を意欲的に行ったり、年少児にやさしくしようとしたりしている。
- 登園するとすぐ水やりを行い、自分たちで植えた栽培物の生長を楽しみにしながら世話をしている。

<教師の願い>

- 地域の方に親しみをもってかかわり、人とかかわる楽しさを感じてほしい。
- 枝豆の栽培についての話を聞いたり、種まきを体験したりしながら、枝豆への興味・関心をもち、生長や収穫への期待、大切に育てようとする気持ちを持ってほしい。

○幼児の姿	幼児の変容	★環境構成 ●教師の援助	教師の思い
6 月 4 日 枝豆の種まき ○豆博士から枝豆についての話を聞き、枝豆に興味を持つ。  ○知っていることや思ったこと、感じたことを発言したり、質問したりする。 ○友達とペアになり実際に枝豆の種まきをする。 「さみしくないように一緒にまこう」「やさしくお布団かけてあげよう」など、一緒に教えてもらったことを友達と伝え合い、気持ちを込めながら種まきをする姿が見られた。 「お水いっぱい飲んで大きくなってね」とやさしく声をかけながら水やりする姿が見られ、生長を楽しみにしている。		★栽培活動のお手伝いをしてくださる地域の方（豆博士）を紹介し、活動内容を知らせる。 豆博士とネーミングすることで、地域の方に親しみをもってかかわってほしい。 ★枝豆の栽培についての話は、豆博士と一緒にクイズ形式で話を進めるようにし、「みる」「さわる」「においをかぐ」「ほかの種と比べてみる」など五感を使いながら幼児の興味、関心、知的好奇心を育んでいく。（5 K：比べる、声を出させる） ●興味を持ったことや気づいたことなど、大切に受け止め、共感していく。（5 K：共感） ★「どんなふうにまいたら、えだめさん喜ぶかな？」と問いかけ、どんな風に生長してほしいか、どのように世話をしていくか話し合いの場を設ける。（5 K：声を出させる、共有、共感） 種まきの方法だけでなく気持ちも大切であることを考えてほしい。植物も自分たちと同じ生命を持っていることや成長していることに気づいてほしい。 ●やさしい気持ちで種まきができたと大切に育てようとしている気持ちを認め、枝豆のこれから成長や収穫への期待を持たせるよう言葉かけをする。また、お世話になった豆博士に感謝の気持ちを	

6月5日 ○グループごとに昨日教わったことを発表する。 ゆり組さんのために、教わったことを自分なりの言葉で友達に伝えようとする姿が見られた。頼られることで、自信をもってかかわる姿が見られた。 ○ペアになり、ゆり組と一緒に枝豆の種まきをする。 「こうするといいよ」「やさしくお布団かけてあげるんだよ」など教わったことを丁寧に伝えやさしくかかわったり、「じょうずにできたね」と相手を認めたりする姿が見られた。 「ぼくたち、昨日やったからゆり組さんやっていいよ。」と譲ったり、手伝ってあげたり、相手を思いやる気持ちが見られた。 「ありがとう」とお礼を言われ嬉しそうにしていた。	もてるよう言葉かけをする。 ★昨日豆博士に教えてもらったことを、今度は自分たちが「豆先生」としてゆり組に教えながら一緒に種まきをすることを提案する。(5K：活躍) ★昨日教わったことを発表できる場を設ける。(5K：活躍) ●自分なりの言葉や動きで伝えようとしている姿を認め、幼児が主体となり活動できるようにする。 相手に伝わるうれしさを感じ、自信を持ってほしい。 人の役に立つ喜び感じながら、相手を思いやる気持ちを持ってほしい。 
--	---

<考察>

- ・ 地域の方と一緒にクイズ形式で取り組んだことで、枝豆の生長に興味・関心を持つことができ、植物も自分たちと同じ生命を持っていることに気付くことができた。また、やさしく教えてもらったことでうれしさを感じ、人とかかわる楽しさを感じることもできた。
- ・ 学年間で教え合ったことで、人の役に立つ喜びを感じることができ、自己肯定感につながったと思う。また、互いの良さにも気付き、思いやりの気持ちも育ってきた。

実践事例 2	「かみなりゲームをしよう！」友達と一緒に遊ぶ中で、約束やルールがあることを
3 年保育 3 歳児	知り、一人一人が体を動かすことの楽しさを感じながら活躍できる保育

<幼児の姿>

令和元年 9 月 保育者 大橋 莉子

- クラス構成 3 歳児 19 名（男児 9 名 女児 10 名）
- 運動会のことを少しずつ理解し始め、いろいろな運動遊びに興味を示している。
- 遊びや生活では個人差があり、教師の言葉かけや援助が必要な幼児がいる。
- 活動に抵抗を示し「やりたくない」と泣くなど活動に参加できない幼児がいる。

<教師の願い>

- 伸び伸びと体を動かすことを楽しんでほしい。
- 友達と一緒に遊ぶ中で約束やルールがあることを知ってほしい。

○幼児の姿	幼児の変容	★環境構成 ●教師の援助 [] 教師の思い
・運動遊びをする。（ダンス） 「はとぽっぽ体操」「ようこそ日本へ」 ・かみなりゲームをする。 ○教師の「ゴロゴロドカン！」の合図で床におへそを隠す（うつぶせになる）。 ○ゲームに楽しそうに参加する幼児がいる一方で、ルールが理解できず戸惑いを見せる幼児もいる。 ○ルールの確認をみんなで言い、もう一度ゲームをする。	友達の見本を見て、遊び方を理解し積極的に遊びに参加できた。見本を見せた幼児もみんなから拍手をもらい嬉しそうな表情をみせる。	★机を片づけ、保育室を動きやすい場とする。 ●教師も一緒に踊り、楽しい雰囲気誘われて、みんなで一緒に踊ることを楽しめるようにする。 ●導入でかみなりの絵本を用いてイメージをもてるようにする。 ●マット遊びの際にする動きを使ってゲームをする。 戸惑っている幼児も体を動かすことを楽しんでほしい。 ★幼児が、話に集中できるように一か所に集まる。 ●教師が一方的に説明するのではなく、幼児の声を取り入れたり、見本として幼児を指名したりして一緒にルールを確認する。（5 K：活躍させる、声を出させる） ●「～くんいいね！」と名前を言いながら幼児を認め、ゲームが盛り上がるように声の大きさやスピードを変化させる。（5 K：比べさせる） ★マットを準備する。 運動会の競技で行うマット遊びを取り入れ、体を動かす楽しさを味わってほしい。 ★日頃からやっている両足飛びやタンブリン鳴らしを掛け合わせてサーキットにし、達成感を味わえるようにする。（5 K：活躍させる）



- ・マット遊びをする。
- ・かみなりゲームの動きを使ってマットの上をゴロゴロと転がる。

幼児が大好きな両足飛びやタンブリン鳴らしがあることでマット遊びにスムーズに挑戦する姿がみられる。

○初めて行うマット遊びに抵抗を示し、不安な表情を見せる幼児がいる。 「もう一回やりたい!」「できた!」と言ったり、友達に「がんばれー!」と声をかけたりして、全員が活動に楽しく参加する姿が見られた。  ○振り返りをする。 ○活動の楽しさを表現したり、次の活動（運動会）に期待をもったりする。 マット遊びが運動会の親子競技で行うことを知り、「運動会楽しみ!」「頑張る!」など運動会へ期待をもつ様子が見られる。	●不安な様子の幼児には「一緒にやってみよう。」と言葉かけをするなど個に応じて援助をする。 一人一人の頑張りを丁寧に受け止めて、幼児がいろいろなことに挑戦する気持ちをもてるようにしたい。 ●「できたね!すごいね!」と声をかけ、自分からやってみようとする気持ちを認めて満足した活動となるようにする。(5 K : 共感する) ●感想を聞いて、活動の楽しさを友達や教師と共有する。(5 K : 共感、共有する) 
---	--

< 考察 >

- ・ いきなりマット遊びをするよりも、かみなりゲームの動きを使ってマット遊びをすることで幼児が安心して活動に取り組むことができたと思う。また、両足飛び、タンブリン鳴らし、マット遊びなど一つの活動に何種類も動きを入れたことで、体を動かすことが苦手な幼児も活躍できる場面を増やすことができた。
- ・ 3歳児として運動機能が発達し、いろいろなことができるようになる一方で「できないかもしれない」と不安を感じてしまう幼児もいるので、教師は不安を受け止めると同時に「できるよ」「すごいね!」と励ましていくことが大切である。
- ・ 活動や教師の援助の中に5つのKを意識し実践していくことで、3歳児でも自分の動きに自信を持ったり友達の良いところに気づいて自分なりにやってみようとしたりする姿が見られた。

(3) 人権が尊重される環境づくり

①「安心して過ごせる園」を目指した実践

- 「あいさつ運動」として玄関ホールであいさつをしながら園児を迎え、保護者と言葉を交わしながら気軽に相談できるようにしている。また、バス乗降所が完成したことにより、安心・安全なバス通園による登降園ができるようになった。



保護者との会話



一般車が入らない場所で安全なバスの乗降



- 誰もが分かりやすい表示の工夫をすることで、文字が分からなくても行動できる環境づくりをしている。



今日の予定は絵カードで表示



声の大きさは、動物で表示



時計の読み方は数字で表示

- 年間計画を立てて、交通安全教室・火災避難訓練・地震避難訓練・I C B M避難訓練・幼年消防クラブによる火災予防啓発運動を行い、命を守る行動ができるようにしている。



親子交通安全教室



地震避難訓練



幼年消防クラブによる防火パレード

②「地域・家庭が一体」になるための実践

- 地域の人材を活用した畑づくり、中村地区のザル菊植栽活動、桃の収穫体験など、地域との連携を大切にしている。会津農林高校の生徒と一緒にさつまいもの栽培と収穫を行い、連携活動を取り入れている。



地域の畑の先生とじゃがいも植え「大きくなりますように」



「じゃがいもの収穫」土の中で大きくなったね



「桃狩り」地域の方の畑で収穫体験をさせていただきました



会津農林高校の生徒さんと
さつまいもの栽培と収穫



中村地区の皆さんとザル菊
の栽培



地域の人材「豆博士」と枝
豆の栽培と収穫

○ 保護者による奉仕作業を行い、家庭の協力を得ながら安心して遊べる環境づくりをしている。



③「自分もほかの人も大切にする人権教育」の実践

○ 人権擁護委員の方による人権啓発活動でお話を聞いたり、花いっぱい運動に取り組んだりすることで、決まりを守ることの大切さに気付いたり、生き物を大切にする気持ちが育ったりしてきた。



○ 祖父母感謝会や高齢者施設寿楽荘訪問、町の敬老会に参加し、高齢者と触れ合いを行ってきた。世代間交流を持つことで、やさしさに触れ、思いやりの気持ちを持つことが出来た。



④「互いの良さを認め、尊重し合う」実践

- 5Kを意識した日々の保育（活躍・共感・比べる・決定・声に出す）を行い、一人一人の自己肯定感を育てるとともに、互いの良さを認め合えるようにしてきた。



「どっちが大きい？」
「こっちのほうが大きいよ」
比べる・共感・決定



「潜れるようになったよ」
「〇〇君すごいね」
活躍・共感・比べる



「集会活動での発表体験」
活躍・声に出す・共感

○人権に関する図書コーナーの設置



サロンの目につきやすいところに、人権絵本コーナーを設置した。

○壁面を活用した掲示の工夫



おうちに人に、わが子の良いところを書いてもらい、壁面に掲示した。

（４） 成果と課題

① 成果

- 教師が人権を意識し、一人一人を温かく受け入れてきたことで安心して生活し、様々なことに興味・関心を持つことが出来るようになった。
- 会津坂下町の「学びのスタイル」の5Kを日々の保育の中で意識して実践してきたことで、伸び伸びと園生活を送り、自己発揮できるようになった。また、友達の頑張りや良さに気づき、認め合う姿が見られるようになった。
- 地域の人との交流や世代間の交流を通して、やさしさに触れることが出来、互いの良さに気づき、思いやりの気持ちが育った。

② 課題

- いろいろな幼児や保護者がいる中で、人権の大切さを伝えることは難しかった。教師が人権意識を高めていくことが大切であると感じた。
- 幼児同士が互いの良さに気付けるようにするには、教師が今まで以上に一人一人の育ちに目を向け、認めていくことが大切だと感じた。



2 会津坂下町人権教育実践の記録

(1) 幼稚園・小学校・中学校の実践事例

② 坂下東幼稚園の実践



1 坂下東幼稚園の教育目標

一人一人が、環境にかかわりながら自己を発揮し、主体的に楽しく活動できる子どもの育成 ○げんきな子 ○なかよくあそべる子 ○かんがえる子
--

2 人権教育に関する目標

- ・ 友だちと様々な経験を重ねる中で、して良いことや悪いことがわかり、相手の気持ちに気付いて行動できるようになる。(道徳性・規範意識)
- ・ 友だちと一緒に考えたり、工夫したり、協力したりすることが楽しくなる。(協同性)
- ・ 地域の身近な人とふれあう中で、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみを持つようになる。(責任・役割・人とのかかわり・豊かな体験)

3 坂下東幼稚園の取組

(1) 実践計画

月 日	内 容	備 考
4 月～	計画作成 親子ふれあい遠足 みーつけた活動 誕生会や集会活動で活躍の場の設定	年中・年長親子
5 月～	幼・小連携活動（年長と1年生） 飼育活動（メダカ・カイコ・オタマジャクシ） 栽培活動（ジャガイモ・サツマイモ・夏野菜）	
6 月 18・19 日 2 8 日 2 5 日	地域交流「サクランボ狩り」 人権擁護員の方と栽培活動（花の苗植え・水やり） 園内研修「公開保育」	人権擁護委員 年中・年長 年長
7 月 2 日 1 0 日 2 0 日 2 0 日 1 7 日	地域交流「太鼓の練習」 親子ふれあい「よい歯の子の教室」 親子ふれあい夏祭り 人権擁護委員の方と職員によるコラボ人権教育 園内研修「公開保育」	数回実施 全園児親子 全園児親子 人権擁護委員
8 月 3 0 日	園内研修「公開保育」	
9 月 4 日 2 0 日 2 0 日 2 5 日	人権教育授業研究会 地域交流「介護施設慰問」 親子ふれあい遠足 園内研修「公開保育」	2年生・そらくみ 年長 年少親子
1 0 月 1 1 日 1 6 日 3 0 日	園内研修「公開保育」 地域交流「リンゴ狩り」 園内研修「公開保育」	年中
1 1 月 2 5 日	地域交流「ごんぼについてのお話を聞く」	年長
1 2 月 4 日	園内研修「公開保育」	
1 2 月 2 3 日	研究のまとめについて	
1 月 1 0 日	地域交流「団子さし」	

幼・小連携活動 14 回 幼・中交流活動 1 回 幼・幼交流活動 1 回 絵本の読み聞かせ 5 回

(2) 人権を意識した保育の実践

実践事例 1	2 年生との交流活動を通して、小学生に優しく教えてもらいながら一緒に工夫し、協力しておもちゃを作りをする中で、就学に期待し、小学生は自分の成長に気付かせていく保育・授業
3 年保育 5 歳児と小学 2 年生（幼小連携）	

令和元年 9 月 4 日（水）

指導者 坂下東幼稚園 年長そら組担任 佐瀬 順子（男 1 1 名 女 1 2 名）
坂下東小学校 2 年 1 組担任 小林 るみ（男 1 2 名 女 9 名）

1 坂下東幼 期のねらい（Ⅲ期 9～10 月）

- 戸外で体を十分に動かし、友達と一緒にルールを守って遊びや生活を進める楽しさを味わう。
- みんなで行う活動を楽しみながら、友達のよさに気付き、様々な友達への親しみを広げる。
- 目的に向かって、力いっぱい取り組む心地よさや、やり遂げた満足感を味わう。

2 幼児の姿

- 友達と一緒に、遊びに必要な物を準備したり、作ったりしてイメージを共有し、工夫しながら遊びを進める姿が見られる。
- 小学生と砂遊びやプール遊びなど交流活動を通して、就学へ期待する気持ちや憧れの気持ちが高まっている。
- 鉄棒や跳び箱を通して年中児とかかわり、やり方や約束を優しく教え喜んで面倒をみている。

3 児童の姿

- ☆ 生活科の学習では、野菜作りや町探検を行ってきた。毎日うれしそうに自分の野菜に水やりをしたり、友達と協力して調べ学習をしたりと、意欲的に取り組む姿が多く見られた。
- ☆ 校外の学習でもルールを守って、仲よく学習しようとする児童が多い。
- ☆ 下学年とのふれ合いでは、積極的に面倒を見ようとする児童が多いが、まだ自分のことで精一杯で、自分から関わるのが難しい児童もいる。

4 本日のねらいと内容（○幼稚園 ☆小学校）

- 動くおもちゃに関心を持ち、2 年生とかかわりながら一緒に作ることを楽しむ。
- 2 年生とかかわりを通して、優しさに気づき就学への期待と憧れの気持ちを持つ。
- ☆ 幼稚園児への関わりを通して、自分の成長に気づく。
- ☆ おもちゃの作り方を幼稚園児に教えて一緒に作ったり遊んだりしながら楽しく交流する中で、園児の気持ちを考えながら接する。

5 人権教育との関連（○幼稚園 ☆小学校）

- おもちゃ作りの中で、2 年生の優しさを感じながら、小学生への憧れの気持ちをもてるようにする。
- 2 年生とかかわりを通して、工夫の仕方に気づき、教えてもらいながら作って出来た時の嬉しさや、感謝の気持ちが持てるようにする。
- ☆ 幼稚園児にわかりやすく優しくおもちゃ作りを教えることで自分に自信を持たせ、自分たちの成長にも気づくことができるようにする。
- ☆ 幼稚園児とのふれ合いを通して園児の頑張りを認めたり励ましたりすることで、他の人を認める態度を育てていく。

6 本日の活動「 いっしょにつくろう 」 (次項別紙参照)

7 当日の保育の様子



8 考 察 (○幼稚園 ☆小学校)

- 2年生とのかかわりを通して優しさを感じ工夫するとおもちゃができることを知ることができた。
- 教えてもらったことを活かして遊びを展開していた。
- ☆ 幼稚園児とのかかわりを通して、自分の成長に気づくことができるようになってきた。
- ☆ おもちゃの作り方を園児に教えて一緒に作ったり遊んだり楽しく交流する中で、園児の気持ちを考えながら接することができた。

(別紙)

本日の活動「いっしょに つくろう」

時間	幼児の活動・反応	児童の活動	〇保育者の支援の仕方・留意点 ☆教師の指導上の留意点 人権に関すること
10分	〇はじめのあいさつ 〇本日の活動内容の確認 〇ねらいや約束の確認 〇どんなおもちゃを作るのか期待をして見る (比べる)	〇おもちゃの紹介をする (活躍)	〇☆ 活動内容やねらい、めあてを掲示して声に出して読み意識付けをする。 〇☆「うごくおもちゃを作ることを確認すること」を確認することで活動目的を明確にし、取り組むことができるようにする。 〇 ホワイトボードに、配置図や終わりの時間を掲示し、見通しを持って活動を楽しめるようにする。
30分	グループに分かれて、おもちゃ作りを楽しむ。 〇児童に教えてもらいながら一緒に作る。 〇楽しい所は、手伝ってもらいながら完成させようとする。	〇担当するコーナーに幼児を連れて行く。 〇幼児に優しく教える。 〇幼児が困っている時は手伝う。(共感・共有)	〇 2年生が楽しそうに紹介する姿に気付け、<u>「作ってみたい」「遊んでみたい」という意欲が高まるようにする。</u> 〇☆スムーズに6～7人組が作れるように事前にグループピッキングしておく。 〇 おもちゃの作り方がわかるように、室内に作り方を掲示しておく。 〇 2年生とのやりとりを見守る中で、<u>自分の思いや考えを伝え、相手の思いを受け止めて進めているかを把握して、認めたり橋渡ししたりしていく。</u> 〇☆おもちゃ作りの中で、友達のおもちゃと似ているところや違うところを見つけたり比べたり出来るよう声をかける。 ☆ 幼児の姿に気付け、<u>できなくて困っている幼児に声をかけて手伝ってあげるよう声をかける。</u> 〇 2年生とやり方やルールを守りながら遊ぶ姿を見守る。 〇☆みんなで力を合わせて片付けが出来るように援助していく。 〇 活動を振り返り、2年生の発表の仕方をしながら自分なりに自信を持って発表が出来るようにしていく。 〇 「またやりたい」「もっとこうしたら」という思いに共感し、達成感や満足感が持てるようにする。 〇 幼児の発表から、感じたことや思いを引き出し、憧れや就学への期待へつながるようにする。 〇 本活動後も、交流の機会があることを伝え期待感を持って過ごせるようにしていく。
5分	〇活動の振り返り 〇先生のお話 〇おわりのあいさつ 〇2年生にしてもらって嬉しかったことや、楽しかったことを発表する。(活躍) (共感・共有) (声)	〇幼児に遊び方を教えながら一緒に遊ぶ。(共感・共有) みんなで片付ける 〇活動にに取り組む中で、自分が頑張ったことを発表する。(活躍) (共感・共有) (声)	

実践事例 2	友だちと一緒に心地よく生活し、遊びが楽しくなっていく実践 『ぼくは
2 年保育 4 歳児	休むんじゃなくて応援するの！』

令和元年 6 月 6 日(木) 保育者 正岡 佑香

<幼児の姿>

- クラス構成 4 歳児 18 名 (男 9 名 女 9 名)
- 運動遊びの場を設定しても、体を動かすことに抵抗を示す幼児がいる。一方で年長児の姿にあこがれの気持ちを持ち跳び箱や鉄棒に挑戦し、できないところを友だち同士で伝え、励まし合う姿が見られる。

<教師の願い>

- 教師友だちと一緒に遊ぶ楽しさ味わってほしい。
- 体を動かす楽しさを感じてほしい。

◎ _____ 特に人権に関すること

・ 幼児の姿	幼児の変容	●環境構成 ★教師の関わり 教師の思い
・ 男児チーム 9 名 女児チーム 7 名に分かれ、マーカーコーンをひっくり返すゲームをする。 ・ 1 回戦目は各チーム 4 人ずつ代表でゲームをする。 ・ 1 回戦行った幼児は、まだやっていなかった幼児の元へ行き、タッチをして交換する。 ・ 2 回戦目は男児チーム 5 人女児チーム 3 人が準備をする。 ・ 相手チームの人数を数え、自分のチームの人数と比べる。 ・ 人数が違うことに気がつき、教師の「どうしたらいいかな」の問いかけに答える。	・ 男児チームは「(女児チームが) 少ないから増やしていいよ」と話をする。 ・ 女児チームは「どうしよう」と言いながら、1 回戦で行った女児を全員連れてきてしまい、7 名になってしまう。 ・ 男児チームは同じ 7 人になるように 2 人増やそうと話をする。 ・ A 男「僕は B 男と C 男がいい。だって勝てそうじゃん」 ・ D 男「おれ、E 男と F 男」 ・ E 男「誰かがお休みすればいいんじゃないの？」 ・ 名前を呼ばれた B 男、C 男、E 男、F 男はやる気満々で、「ぼく、やるよ！」と話をしている。 ・ みんな誘いたいけど人数が合わないため困っている。 ◎「E 男休んでくれるの？」の問いかけに首を横に振る。 ◎休んでもいいよと手を挙げる幼児はいない。 ◎E 男「休むんじゃなくて、応援するの！」	●全員で行くと混み合い、けがにもつながることが予想されたため、各チーム同じ人数を呼び、行う。 ★2 回戦目は「今やらなかったお友だち出てきてね」と伝える。 ★各チームの人数を数え、人数の違いを気が付けるようにする。 - 人数の違いに気が付き、どうしたらいいか、どんな方法があるか考えるきっかけになればいいな。 - 女児チームはだれか二人を選ぶことはできず、みんなを連れてくる。優しさから全員連れてきたのだろうな。 ★幼児の考えを聞きながら、今の状況を言葉で伝え「どうしたらいいと思う？」と幼児に問いかけ、一緒に考える。 ★女児チームも作戦会議をしてみようと提案する。 - 男児チームにいるそれぞれの意見を聞きながら、チームのみんなが納得し、気持ちよくゲームが進めるようにしていきたい。人数が違う時に、「増やせばいいよ」と発言があったことから、人数の違いには気が付いているので、どんな方法で同じ人数にするか、考えられるのではないかな？ ★「E 男休んでくれるの？」本児にやらなくていいのか確認をする。 ★「E 男は、誰かがお休みすればいいんじゃないの？って言ったんだけど、誰か休んでくれる人いる？」と男児チーム

・教師の問いかけに F 男も「僕も応援する」と手をあげる。 ・女兒チームは「力を合わせて頑張るぞ！えいえいおー！」と円陣を組んで盛り上がる。	みんなに聞く。 ◎<u>休むということは見ているだけになってしまうが、応援することで、自分も一緒に行っている。みんなの力になっているという役割を E 男は考えて発言しているのだ</u>と思った。
・人数もそろい、2 回戦が始まる。 ・E 男・F 男はみんなが見える場所に移動し、大きな声で応援をする。 ・男児チームと女兒チームどちらが多かったか、マーカーコーンの数を数える。 ・男児チームが勝ち、喜ぶ。女兒チームは負けて悔しがる。	★E 男が「応援するの！」と話をしていたことをみんなにも伝え、「E 男と一緒に応援してくれる人はいるかな？」と聞く。 ★男児チームは、応援に回ってくれた幼児のパワーもあってみんなで協力したから勝てたのかな。女兒チームも、「えいえいおー！」をして、心が揃っていたから、次は勝てるかもしれないね。と話をし、また行いたいと思えるように話をする。 ★G 子の気持ちに寄り添い、「悔しかったね」と抱きしめる。 G 子は女兒チームみんな悔しかったことを知らせ、自分と同じように抱きしめてあげてほしいことを伝えていた。相手の気持ちが分かり、自分がしてもらったことを、相手にもしてあげたいと思ったのだろうな。
・教室に戻り、G 子が「先生、負けて悔しかった」と話抱きついてくる。 ・G 子が「先生 H 子も」「I 子も」と指を指す。 ・女兒チームのみんなが、近くに寄ってきて一人ずつ教師と抱き合う。 ・「悔しいよね」「次は勝とうね」などと女兒チームで声を掛け合っていた。	

< 考察 >

- 自分の役割を見つけることで、チームの一員として取り組みたいという思いが表れていた。また、自分が経験した気持ちと、同じ気持ちの友だちがいることに気が付き、自分がしてもらったことを相手にもやってあげたいという優しさが見られたと思う。
- 教師や友だちと一緒に考えたり、協力したりすることで、友だちとかかわって遊ぶことが楽しくなっていく。このような経験をたくさん行えるようにしていきたい。



(3) 人権が尊重される環境づくり

①「安心して過ごせる園を目指した実践」

- 一人一人の成長に合わせて、保護者と共通理解のもと子育てしていこうとする意識を育てている。また、担任以外のどの教師とも随時気軽に相談できるようにしている。



- 学年や年齢の壁を取り除いて活動する機会を計画的に取り入れている。年長児が年少児の面倒を見ることで、年中児も優しく接することが自然にできるようになってきた。



②「家庭・地域が一体となるための実践」

- 幼幼・幼小・幼中連携・交流を行っている。小学校との連携では、ねらい・目標・内容を明確にしたことで、子どもたち同士の関わりもスムーズで、より親しみを持ち、就学に向けての期待も高まってきた。



- 地域の方とのふれあいながら、町の特産物や伝統文化に親しみを持つことができた。



- 高校生、中学生、小学生、保護者ボランティアなどに絵本の読みきかせにより、様々な絵本と触れ合うことができた。



- 園行事に親子でふれあう活動を取り入れることで、笑顔で楽しさを共有することができた。



③ 「自分も他の人も大切にする人権教育」の実践

- 当番活動や飼育栽培活動を通して、自分の役割に責任を持って行えるようにしている。



- 保護者が沢山集まる夏祭りで、人権擁護委員会の方に人権教育をしていただき、「どうするとよいのかな？」の問いかけに、自分の考えや思いを話す機会を作ってきた。日常保育の中でも意識して考えをまとめることや話すこと、聞くことを大切にしている。



- 保護者手作りの米ぬか雑巾を使って、床磨きをしている。また学期ごとに教室の大掃除を行い、自分たちの園舎はみんなできれいにしようとする気持ちを育てている。



④「互いのよさを認め、尊重しあう」実践

- 日常保育の中は5K「活躍させる」「共感・共有させる（うなづき・つけたし）」「比べさせる」「決定させる」「声を出させる」を大切にしながら、教師がモデルとなって子どもたちに接している。



（4）成果と課題

① 成 果

- ・ 人権擁護委員の方と一緒に花の苗植えや夏祭りで寸劇を観賞したり、地域の方に収穫の喜びを味わわせてもらったり、祭りに参加させていただくことで、人とのかかわりの心地よさから、相手の気持ちに気付けるようになってきた。
- ・ 年齢に応じて「順番を守る」「ルールを守る」「友達の話聞く」など相手の気持ちや立場について具体的に伝えたり、協同遊びなどで相談する機会を作ってきたりすることでトラブルはあるものの、グループやチームでの面白さを意識しながら、どのようにしたらより楽しくなるか、自分たちで考えることができる幼児が多くなってきた。
- ・ 挨拶や相手に対する配慮など、職員が意識して行うことで、保護者との信頼関係も築かれてきた。

② 課 題

- ・ 人権教育は園と家庭が一体となって、同じようにかかわらなければ、幼児自身が混乱をする場合があるため、今後も連携を図りながら健やかな成長につながるようにしていく必要がある。
- ・ 職員同士が連携をさらに図りながら、全園児にかかわっていこうとする意識を高めていかなければならない。

2 会津坂下町人権教育実践の記録

(1) 幼稚園・小学校・中学校の実践事例

③ 坂下南小学校の実践



1 坂下南小学校の教育目標

「学びあう」「競いあう」「認めあう」未来を切り拓くばんげっ子の育成
 ○よく考え、進んで学習する子ども
 ○感動する心を持ち、思いやりのある子ども
 ○明るく、健康でたくましい子ども

2 人権教育に関する目標

人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育てる。

人権教育具体的目標（重点）

○ すべての教育活動を通して、人権を尊重する教育の推進を図る。
 ○ 教師と児童、児童と児童が、互いの人権を認め合うことができる人権意識・人権感覚の育成の推進を図る。

学 年 別 人 権 教 育 目 標		
低学年 ○ 望ましい生活習慣を身につける。 ○ 信頼できる友だちを持ち、励ましあい、高めあう。 ○ 日常生活の中で、人権尊重の意義を感じとれるような感性を磨く。	中学年 ○ 目標を目指し、着実にやり抜く強い意志を持つ。 ○ 身近にいる人に対して思いやりの心や感謝の気持ちを培う。 ○ かけがえのない自他の生命を尊重する。	高学年 ○ 個性を伸ばして充実した生き方を追及する。 ○ 自他を認め合い協力してあって、集団生活の向上に寄与する態度を育てる。 ○ 人間として生きることの喜びを見いだすよう努める。

3 坂下南小学校の取組

（1）実践計画

月 日	内 容	備 考
5月17日（金）	小学校運動会の招待状を年長児に渡す。	1年生担当
5月30日（木）	年長児が相撲の練習を見学する。	3年生担当
6月17日（月）	5年2組算数科研究授業（要請訪問）	
7月11日（木）	年長児が水泳で交流する。（雨天のため体育館で交流）	5年生担当
10月12日（土）	1年生が幼稚園の運動会に参加する。	
10月23日（水）	園児が小学校の学習発表会予行を見学する。	
11月 5日（火）	「秋のおもちゃまつり」に園児を招待(1年)し、サポート(2年)する。	1・2年生担当
11月15日（金）	2年1組算数科研究授業（要請訪問）	
12月 6日（金）	「動くおもちゃまつり」に年長児を招待する。	2年生担当
1月21日（火）	幼稚園生と一緒に縄跳び等の運動遊びをする。	4年生担当
2月 6日（木）	幼稚園生と一緒に運動遊び等で交流をする。	6年生担当
2月18日（火）	幼稚園生の体験入学。学校見学や1年生との交流	1年生担当

(2) 人権教育を意識した授業の実践

実践事例 1	わる数・商・わられる数の関係を考える学習活動の中で、5Kを意識させ、全員が
第5学年	活躍したり課題や学習の成果を共感・共有したりすることができる授業

令和元年6月11日(火) 授業者 藤田 瑞子

1 単 元 名 「小数のわり算を考えよう」(小数のわり算)

2 人権教育との関わり

- 本学級では、よりよい学習集団を形成し「全員が参加できる授業づくり」をすることが、児童が体感的に人権の尊重について学べる機会であると捉えて授業を展開した。

【視点2】自他を大切にする学習活動の工夫

① 学ぶ楽しさを体感し、学習に積極的に臨む学級作り

課題解決的な学習を通して、その楽しさを感じ始め、授業に前向きに取り組む様子が見られてきた。これからも教師が、課題解決的な活動を意図的に取り入れたり、コーディネートしたりしながら、児童がさらに楽しさや意欲を高め、積極的に参加できるようにしたい。

② 5Kを重視した授業

5K(「活躍させる」「共有・共感させる」「比べさせる」「決定させる」「声を出させる」)を意識しながら授業の中で指導をすることで、「みんなで学んでいる」という気持ちを高められるように努めてきた。本時においてもできる限り、このような活動を取り入れた。

3 本時の実際

(1) 本時のねらい

- ・除数が1より大きい時や小さい時の、商と被除数の関係を考えることができる。

(2) 学習過程

学 習 活 動・内 容	時間	活 動 の 様 子
1 本時のねらいをつかむ。 ・本時の問題を確認し、めあてをつかむ。 ⑤1.2mの代金が240円の赤のリボンと、0.8mの代金が240円の青いリボンがあります。1mのねだんはそれぞれいくらですか。 (め) 商がわられる数より大きくなったり小さくなったりするのは、どんな時かな?	15	○問題文を3つに分けられるように工夫することで、題意をつかみやすくし、児童は題意をつかむことができた。(声)  ○計算結果と既習事項のズレから、本時の課題をとらえさせた。 

2 解決方法を考え、自力解決する。 (1) 数直線を使って説明する。 3 互いの考えを発表し学び合う。 (1) ペアやグループで自分の考えを伝え合う。  (2) 全体で発表し合う。	20	○導入から、数直線を使い指導してきたことで、児童は数直線を使って、解決の見通しをもつことができた。(決定)  ○友達との交流を通して、自分の考えを伝えたり、友達の考えにうなずいたりして共感できた。(活躍、共感・共有、比べる) ○友達との交流をノートに書く児童の様子。自分では、なかなか解決できなかったが、友達の考えを聞いて分かったことをメモをし理解することができた。(共感・共有)
4 学習のまとめをする。 (1) まとめる。 (ま) 小数でわるわり算では、1 より大きい数でわると商はわられる数より小さくなり、<u>1 より小さい数でわると、商はわられる数より大きくなる。</u> 5 適用問題を解く。(教科書 p 54 △5) 6 本時の学習を振り返る。	10	○子ども達の言葉によりまとめを作成した。  ○適用問題を解き、本時の学習を理解できたかどうか確認することができた。

4 授業の考察 (成果○ 課題●)

- 既習事項とのズレから課題をとらえさせたことで説明してみたいという意欲をもたせることができた。また、日常生活に結びつけて考えさせるなど課題解決学習での工夫が、児童の意欲や学習内容の理解につながった。
- ペアやグループ、全体での話し合いが一人一人の「活躍」や「共感・共有」などの場になっていた。また、自力で解決できなくても、メモすることで友達の考えを理解しようとする児童も見られた。お互いの考えを理解したり尊重したりする様子が感じられた。
- 数の大小関係等、児童はよく考えていたが、どう伝えたらよいか(説明の仕方)が難しかったようだ。これからも、さらに児童に寄り添い何をどう伝えたらよいか、具体的に指導をしていきたい。



実践事例 2	間違っていると感じる物事を見過ごさず、よいと思うことを進んで行う判断力を育てる授業
第3学年 道徳	

令和元年9月18日（水）授業者 矢島 岳人

- 1 主題名 正しいことは、はっきり言おう 内容項目 A（1）善悪の判断・自律・自由と責任
教材名 「心にひびくかねの音」（「みんなの道徳3年」学研）

2 人権教育との関わり

【視点1】人権に関する基本的な知識についての理解を深める工夫

本主題では、間違っていると感じることに對して自分ならどうするかについての判断力を育てていく。本教材の登場人物の心の動きと照らし合わせながら、自他の人権を尊重し、物事を自分のこととしてとらえ、他人に対して勇気をもって行動することの大切さに気づかせたい。

【視点2】自他を大切にする学習活動の工夫

全体で話し合う場面を設定したり、ネームプレートを使って自分の考えを決定させたりすることで、自分の立場を表現したり他者の意見や考えに共感したりして学びを深められるようにする。

【視点3】自他を大切にする振り返り活動の設定

終末においてアンケートの結果や教材を振り返らせることによって、自分の考えを振り返り、これからの実践への意欲を高めることができるようにする。

3 本時の実際

	学習活動・内容 ●主な発問 ・予想される児童の主な反応	時間	活動の様子
つかむ	1 事前のアンケートの結果を見ながら、勇気を持って行動することの難しさを知る。 ● どんな気持ちになっている人が多いかな。 ・ 嫌な気持ち。 など	5	○ 事前のアンケート調査から、「間違っていることを行ってしまうことがある。」ことに目を向けさせ、価値への方向付けができた。
追求する	2 アルベルトが小鳥を打ちに行こうと決めた理由を話し合う。 ● どうしてアルベルトは小鳥を打ちに行っただと思いますか。 ・ 友達と一緒に遊びたかった。 など	5	
	3 自分だったら小鳥を打つかどうかを話し合う。 ● みんなだったら小鳥を打ちますか、打ちませんか。ワークシートに、小鳥を打つかどうかを書いて、理由も書いてみましょう。 ・ 友達に誘われたから打つ。 など	15	○ 黒板にネームプレートを貼らせ、自分や友達の考えを明らかにして考えることができた。（決定）

	4 アルベルトがしたことについてどう思うかを話し合う。 ● 「何をするんだよアルベルト」と友達に言われたとき、アルベルトはどんなことを思ったのでしょうか。 ・小鳥が死ななくてよかった。 など	10	○ 児童が発表した後に、今の考えに対してどう思うか、違う考えを持った児童に問いかけた。 (活躍・比べる・共感) ○ 正しいことをした時の感情や、友達と一緒に思いが必ずしも正しくはないことを捉えることができた。(発表(声))  ○ 事前アンケートの結果から、児童がこれまで本当の友情をどう捉えていたか振り返りながら考えることができるようにした。 
まとめ	5 アンケートの結果や教材を通して、これからどのようにしていきたいかを使ってまとめて考えを発表する。 ● アンケート結果をもう一度見てください。これから、みなさんはどうしていきたいですか。ワークシートに書いてみましょう。 ・アルベルトみたいになりたい。 など	7	
	6 教師の説話を聞く。	3	

4 授業の考察(成果○ 課題●)

- ネームプレートを活用することで、自分の考えを「決定」したり、友達の考えと「比較」したりすることができ、視覚的にとらえることができた。また、児童が友達の考えに「共感」したり、教師が児童を「活躍」させたりすることにもつながった。
- 児童へのアンケートをもとにして話し合いを行ったことで、事前に実態をつかむことができ、より児童の思いに添った話し合いになった。
- 児童の考えを広げるところでは、「問い返し」「ゆさぶり」「投げかけ」などを効果的に使うと、より考えを深めることができたように思う。



（３）人権が尊重される環境づくり

「安心して過ごせる園・学校」を目指した実践

① 児童（委員会活動）によるあいさつ運動



児童会の生活委員会を中心に「あいさつ運動」が毎朝行われた。

登校してくる友達と元気にあいさつを交わし合った。元気にあいさつをする児童やにこにこ笑顔であいさつをする児童などの様子が見られ、１日のよいスタートがきれた。今年度も、子ども同士だけでなく、地域の方にもあいさつする姿が多く見られた。

校舎の外だけでなく、児童の昇降口付近でもあいさつ運動を行っている。

② 教育委員会・見守り隊の方々のご協力による安全な登下校

地域・関係機関の方々のご協力もいただいた。朝や帰り登下校時の見守り隊の方々のご協力や教育委員会の方にも見守りをしていただいた。そのおかげで、安全に安心して登下校することができた。毎年、年度初めに各地区の見守り隊の方に来ていただき、児童との顔合わせ会を全校集会で行い、交流している。



③ ５Ｋを意識した日々の授業の実践



授業の中でも児童が自他を認め、尊重していくために「５Ｋ」を意識した授業を行った。「５Ｋ」とは、秋田県教育専門監の先生の実践に習ったもので、Ｋ１（活躍させる）、Ｋ２（共感する）、Ｋ３（比べる）Ｋ４（決定する）、Ｋ５（声に出す）である。今年度も、「５Ｋ」を意識しながら、児童一人一人を尊重しつつ、学力向上につながるように、日々、授業を行ってきた。

「家庭・地域が一体」になるための実践

④ 地域ボランティアや保護者との連携・協力



運動会では地域の方の参加をお願いしている。写真は、運動会での「坂下音頭」の様子である。踊り方の指導を地域のスポーツ民謡の方をお願いし、当日も児童や保護者、地域の方と共にとっても盛り上がった。

また、今年も年4回のPTAによる親子奉仕作業が行われ、たくさんのPTAの方にご協力をいただいた。

⑤ 子どもたちが地域を知るための取り組み



4年生の社会科「郷土の発展に尽くす」の中で、「栗村弾正盛俊」が鎌倉幕府滅亡直前から、この坂下町に堰を築いたことを学習した。

また、実際にこの堰を見学した。現在もこの「栗村堰」が使用され、水田に水を引くために活用されていることを知り、児童は人々のために力を尽くした人についての関心を高めたようだった。

⑥ 地域の方や高校生との交流

5年生では年間を通しての稲作体験を行ってきた。地域の「船窪有志会」の方々にお世話になり、「種まき」から「稲刈り」などの体験をしてきた。また、お世話になった方々を招待し感謝の気持ちを込めて新米で作った「おにぎりパーティー」を行った。地域の方だけでなく近隣の会津農林高校にお世話になり会津の郷土野菜である「小菊カボチャ」や「枝豆」を作る体験も行った。



「自分も他の人も大切にする人権教育」の実践

⑦ 毎時間の授業中で自分も他の人も大切にする教育



K 2 共感する



K 3 比べる

日々の学習の中で、それぞれの教室で5Kを意識した授業が行われてきた。その5Kの中で「共感する」「比べる」をペアやグループ学習、全体の話し合いの場面で、お互いの意見や考えを生かし大切にすることを実践してきた。

⑧ 幼小連携について①（3年生の「すもうれんしゅう」の見学）

各学年とも幼小連携を行った。右の写真は幼稚園生が3年生の相撲の練習を見学している場面である。準備運動の時には、幼稚園生もいっしょに行った。3年生の児童の感想を見ると「幼稚園生が見ているので、ドキドキした」や「幼稚園生にも優しく教えてあげたいな」等、小さい子と関わることによって喜び等を感じたり、自分の成長を感じたりすることができたようだ。



⑨ 幼小連携について②（1年生との「秋のおもちゃまつり」）



左の写真は幼稚園生を1年生が小学校に招き、「秋のおもちゃまつり」を行った場面である。秋の木の实や葉っぱを使って、楽しめるおもちゃを1年生が作り、幼稚園生に楽しんでもらう活動であり、1年生は次のような感想を書いていた。「私は、コマのコーナーでした。がんばって作りました。幼稚園の子が喜んでくれてうれしかったです。」

幼稚園生に優しく接していて、年下の子への思いやりを感じた活動であった。

「互いのよさを認め、尊重し合う」実践

⑩ 人権についての知識や理解を深めるための環境整備（人権コーナーの設置）

子どもたちに人権について知ってもらおうと、校内に「人権コーナー」を設置している。人権について分かりやすく漫画で紹介されている法務省のリーフレットを掲示したり、人権についての図書コーナーを3階の中央廊下に設置したりしている。

校舎と校舎の通路ではあったが、掲示の漫画を見たり、リーフレットを読んだりする児童が時折みられた。



⑪ 「ありがとう郵便」活動



今年も校内に「ありがとう郵便ポスト」を設置した。これは、「ありがとう」の気持ちを手紙に書いて友達に届けるものであり、児童は関心を持ってポストに感謝の手紙を入れていた。

ポストに入れた「ありがとう郵便」は昼休みに6年生の代表委員によって各クラスに配達されたり、毎日3～5通程度、給食時の放送で紹介されたりした。登下校や学習、生活などいろいろな場面での感謝の手紙であった。

⑫ 図書委員会による幼稚園への読み聞かせ活動

図書委員会が幼稚園を訪問し、読み聞かせを行った。幼稚園生は、紙芝居を食い入るように見つめていた。図書委員会児童は、はじめは緊張気味だったが、徐々に緊張もほぐれ、幼稚園児の様子を時々見ながら読み聞かせをしていた。終わってからの幼稚園児や図書委員会児童の笑顔が印象的だった。

（４）成果と課題

① 成果

- 人との交流活動や人権コーナー（掲示）、感謝を伝える活動（ありがとう郵便）など人権に関する活動を工夫したことで、さらに人権への関心や意識が高まった。
- 自分や自分に関わる人のよさに気づいていくためには、本校児童だけでなく、地域の人や保護者、幼稚園や高校などとの連携や交流も大切である。

② 課題

- 学校と交流を行う関係団体等との連絡調整が難しいこともあった。

2 会津坂下町人権教育実践の記録

(1) 幼稚園・小学校・中学校の実践事例

④ 坂下東小学校の実践



1 坂下東小学校の教育目標

「学びあう」「競いあう」「認めあう」未来を切り拓くばんげっ子の育成

- よく考え、進んで学習する子ども
- 感動する心を持ち、思いやりのある子ども
- 明るく、健康でたくましい子ども

2 人権教育に関する目標

人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育てる。

3 坂下東小学校の取組

(1) 実践計画

月 日	内 容	備 考
通 年	朝のあいさつ運動	児童会活動
5月21日(火)	第1回 hyper-QU	
5月30日(木)	幼小連携活動・砂遊び(1年と年長)	東幼稚園
6月 5日(水)	幼小連携活動・学校探検(1年と年長)	東小学校
6月10日(月)・12日(水)・13日(木)	幼小連携活動・わらべうた	東幼稚園
6月～10月	人権啓発のための花いっぱい運動	町人権教育総合推進事業
6月12日(火)・19日(火)・26日(火)	本の読み聞かせ12日(1・2年)・19日(3・4年)・26日(5・6年)	学期ごとに計画
6月18日(火)	幼小連携活動・聞いて動いて(2年と年中)	東小学校
6月19日(水)	第2学年2組算数科授業研究	要請訪問
6月27日(木)	児童会集会活動	縦割り活動
7月17日(水)	幼小連携活動・水遊び(5年と年長)	東小学校プール
7月17日(水)	両沼地区特別支援学級交流会	会津自然の家
8月22日(木)	人権教育講演会(道の駅あいづ湯川・会津坂下)	町人権教育総合推進事業
8月30日(金)	幼小連携活動・水遊び(6年と年中)	東小学校プール
9月上旬	小中連携活動・先輩に学ぶ(6年と坂下中学生)	東小学校
9月 4日(火)	基礎学力向上推進会議授業研究会 (人権教育授業研究会) 外国語・算数・学級活動・生活(幼小連携) 人権教育講話	町人権教育総合推進事業 東幼稚園、東小学校
10月初旬	人権意識調査(教職員・保護者・児童)	町人権教育総合推進事業
10月 3日(木)	第2回 hyper-QU	
10月10日(木)	幼小連携活動(全児童・園児)・ふれあいウォーク(全児童)	東小・町内、縦割り活動
10月11日(金)	幼小連携活動・一緒に遊ぼう(4年と年少)	東小学校

1 1 月 5 日 (火)	幼小連携活動・秋と遊ぼう (1 年と年中)	坂下自然の家
1 1 月 5 日 (火)	幼小連携活動・フェスティバル (2 年と年長)	東小学校
1 1 月 5 日 (火)	幼小連携活動・レッツトライ (5 年と年少)	東小学校
1 1 月 1 4 日 (木)	幼小連携活動・聞いて聞かせて (4 年と年中)	東小学校
1 1 月 2 0 日 (水)	第 5 学年 1 組国語科授業研究会	要請訪問
1 1 月 2 8 日 (木)	会津坂下町人権教育授業研究発表会 (坂下中) 人権教育講演会	県人権教育総合推進事業
1 2 月 1 0 日 (火)	幼小連携活動・遊びの広場 (2 年と全幼児)	東幼稚園
2 月 6 日 (木)	幼小連携活動・一緒に遊ぼう (3 年と年中)	東小学校
2 月 1 2 日 (水)	小中連携活動・学校説明会 (6 年と坂下中学生)	坂下中学校
2 月 1 3 日 (木)	幼小連携活動・体験入学 (1 年と年長)	東小学校
2 月 1 3 日 (木)	幼小連携活動・体験入学 (全校児童と年長)	東小学校
3 月 1 7 日 (火)	幼小連携活動・クリーン作戦 (5 年と全幼児)	東幼稚園



(2) 人権教育を意識した授業の実践

実践事例 1	グループや全体で話し合い、友だちの考えと比べながら自分の考えを整理
第 6 学年学級活動	させることで、いじめの仲裁者になれる強い気持ちをもたせる授業

令和元年 9 月 4 日 指導者 田崎 史高

- 1 題材名 「仲裁者になる勇気をもって！」
学級活動 (1) ア 学級や学校における生活上の諸問題
学級活動 (2) ウ よりよい人間関係の育成

2 題材設定の意図について

(1) 児童の実態 (男子 14 名 女子 14 名)

本学級の児童は、明るく素直な児童が多い。男女仲が良く、けんかすることも以前に比べて少なくなってきた。QU テストの結果では、「満足群」に属している児童が 96% (1 人以外) いて、結果だけ見ると学級の雰囲気や人間関係もうまくいっているように見える。しかし、自己中心的な言葉を言ったり、相手の気持ちを考えない言葉を発したりして相手を傷つけてしまうような場面も見られる。また、1 学期に行ったアンケート調査では、「今の学年になって友だちにいやなことをされていませんか」という質問に対し、1 名の児童が「ある」と答えた。また、逆に「今の学年になって悪口やあだ名、仲間はずれ、いたずらなどをしたことがありますか」という質問に対し、4 名の児童が「ある」と答えている。このことから、現在、いじめにつながる可能性のある言動は、日常的にあると考えられる。

(2) 題材設定の理由

本題材は NHK for school の「いじめをノックアウト」で紹介されている題材を取り上げる。「3 月のライオン」という漫画の内容の一部を取り上げるが、いじめについて考えさせていくのに適した教材である。自分の友だちがいじめにあい、それを仲裁したら逆に自分がいじめあってしまうという話の内容である。正しい判断をして仲裁したのに逆にいじめられてしまう気持ちを考えさせ、自分自身だったら仲裁者になれるか考えさせていきたい。

本活動では、いじめを仲裁したのに逆にいじめられてしまった主人公の親しい知人 (ひなた) の思いを知るとともに、いじめられてもその自分 (ひなた) のとった行動が正しかったと考えることについて、グループや全体で意見を交流して話し合うことで、いじめに立ち向かう勇気の大切さに気づかせていきたい。

(3) 教師のコーディネート

本時では、「3 月のライオン」の漫画の一部を取り上げ、児童に関心をもたせる。その後、いじめを受けるようになった主人公の親しい知人 (ひなた) の気持ちやひなたのとった言動に着目させ、共感的感情を高めさせる。自分がいじめられるかもしれないという不安がある中で、正しい判断をしていじめの仲裁者になれるか子どもたちに問い、ゆさぶっていききたい。その際、グループや全体で話し合わせ、友だちの考えと比べながら自分の考えを整理できるように声をかけていく。終末の振り返りでは、自分の考えをもたせ、行動宣言を書かせることで本時の内容を振り返るとともに、仲裁者になれるための強い気持ちをもたせていきたい。

3 指導計画

	学習内容・活動	指導上の留意点	目指す児童の姿
1 時間目	・いじめを受けて自殺した子どもの遺書を見る。 ・いじめの4層構造について知る。 ・被害者、加害者、傍観者、観衆のそれぞれに伝えたいことを考える。	・なぜ、被害者はこのような自殺をしなければならなかったのか原因に着目させていく。 ・それぞれの立場に立ってできることを考えさせる。	・いじめはどこにでも存在することを知り、いじめは絶対に許されないことを理解できる。 ・それぞれの立場に、自分の考えを伝えることができる。
2 時間目 (本時)	・3月のライオンの漫画を見て、いじめの状況を知る。 ・ひなたのとった行動について考え話し合う。(グループ→全体) ・正しい判断をして仲裁者になれるか考える。	・仲裁者はいじめを受ける可能性もあることを伝え、誰にでも起こりえることを知らせる。 ・いじめを受けるのがこわいという児童の気持ちも認める。	・ひなたに共感し、いじめの酷さを理解できる。 ・いじめを恐れずに、正しい判断をして行動できる勇気をもつことができる。

4 本時のねらい

主人公の親しい知人（ひなた）のとった行動が正しい判断であったことを理解し、いじめの場面に遭遇したときには仲裁者となっていじめを拡大させない勇気をもつことが大切であることを理解する。

5 本時について

学習活動・内容	活動の様子
1 いじめの4層構造について振り返る。	◎ 既習のいじめの4層構造について振り返り、被害者・加害者・傍観者・観衆がいることを確認した。 ※そろえる 学びのルール 
2 「3月のライオン」の映像を見る。	◎ 漫画の一部を映像で見せ、関心をもたせるとともに、本時の学習への意欲付けを図った。(教材提示の工夫) 
3 本時の課題を確認する。 ④ あなたは仲裁者になれる？	◎ めあてを全員で声に出して読ませることで本時の課題解決への意欲を高めた。 ※声を出させる 5K ※そろえる 学びのルール 
4 ひなたの気持ちについて考える。 (1) 友だちを救おうとしたときの気持ちについて (2) 逆にいじめられるようになったときの気持ちについて	◎ 友だちを救おうとした時のひなたの気持ちや、逆にいじめられるようになった時のひなたの気持ちを考えさせ、共感的感情を高めた。 ※共感・共有させる 5K 

5 自分だったらひなたと同じ行動をとるか考える。	◎ 自分だったら、ひなたと同じ行動をとるか考えさせ、意思決定をさせる。その際、ネームプレートを活用した。 ※決定させる 5K 
6 ひなたの言った台詞について考える。 「わたしは、まちがっていない!」 (1) 個人で考える。 (2) グループで話し合う。 (3) 全体で考えを深める。	 ○ いじめられてつらい気持ちがあるが、それでも「わたしは、まちがっていない!」と言ったひなたの気持ちについて考えさせることで、勇気をもった正しい判断が大切であることを確認させた。 ※比べさせる 5K
7 本時のまとめをする。 正しい判断をして、勇気を持っていじめを仲裁できるようになる。 8 本時を振り返る。 本時の学習を振り返り、一人ひとり行動宣言を書く。	○ いじめに遭遇した時には、仲裁できる勇気をもつことの大切さについて知らせることで、いじめを拡大させないことを伝えた。 ◎ 今日の学習でどんなことを感じたのか振り返らせるとともに、いじめに遭遇したときに、仲裁できるように行動宣言を書かせた。(振り返り)

6 授業の考察

【成果】

- いじめの4層構造（被害者、加害者、傍観者、観衆）を知らせたことにより、自分もどれかに含まれることになり、いじめを他人事にせず、いじめの問題にしっかりと向き合うという気持ちが高まった。
- 漫画を資料にし、テレビで見せたことにより、資料の内容が捉えやすく、興味関心を高めた。
- めあてや重要なキーワード等を全員で声に出して言わせることで、大切なことをしっかりととらえることができた。また、全員に発表させることで、友だちの様々な考えを聞き、多様な考えを認めようとする気持ちを高めた。
- 自分ならどのような行動をとるかを考えさせる場面では、意思決定させ、黒板に自分のネームプレート貼らせたことで、友だちが自分と同じ考え方をしたり、違う考え方をしたりすることが分かり、互いを認め合うことにつながった。
- グループや、全体で考えを話し合うことにより、自他の考えを認め合いながら考えを深めることができた。

【課題】

- 仲裁者になれるか、という問いに対し、児童のほとんどが「なれる」、数名が「分からない」に分かれ、「なれない」はいなかった。本当になれるのかとゆさぶれば、さらに考えが深まったかと思われる。

実践事例 2	数直線や数字並べ、ベン図に表す活動をさせることにより、倍数や公倍数の並び方の規則性に気づかせ、理解を広げる授業
第 5 学年算数科	

令和元年 9 月 4 日 指導者 木野 善弥

1 単 元 名 「整数の性質を調べよう」 (偶数と奇数、倍数と約数)

2 単元の目標

- 整数は、観点を決めると偶数と奇数の2つの集合に類別できることよさに気づき、ある数の倍数約数の集まりを集合としてとらえようしたり、生活に用いようしたりする。 (関心・意欲・態度)
- 偶数、奇数、ある数の倍数や約数の集まりをそれぞれ1つの集合、また、公倍数、公約数の集まりをそれぞれの数の倍数や約数の集合の共通の要素からなる集合としてとらえることができる。 (数学的な考え方)
- 整数を偶数と奇数に類別することができる。倍数、公倍数、最小公倍数、約数、公約数、最大公約数を求めることができる。 (技能)
- 偶数、奇数の意味や性質、すべての整数は偶数と奇数に類別できることを理解する。倍数、公倍数、最小公倍数、約数、公約数、最大公約数の意味とその求め方について理解する。 (知識・理解)

3 指導の意図

本単元の指導にあたり、まず導入の1時目では、1から順に数字を交互に並べる活動を通して、奇数と偶数の集合に類別できること、奇数に1を加えると偶数(偶数には0を含む)になることなどを学ばせる。

次に2時目では、2人1組でダンスをするときの人数を調べる問題場面の提示から、数直線で調べる活動を通して、0を除く偶数が2の倍数であることをおさえる。さらに、ダンスの途中で4人1組に組み替えをするときにうまくいく人数を考える問題場面の提示し、2と4の公倍数について学ばせる。その際、数直線や数字並べで調べた活動を基に2の倍数の集合と4の倍数の集合をベン図に表すことで、2つの数の集合の関係をつかませる。具体的には、4の倍数が2の倍数に含まれること[$(4\text{の倍数}) \subset (2\text{の倍数})$]、4の倍数(部分集合)が公倍数になることである。

本時では、まず初めに3人1組でダンスをするときの人数を調べる問題場面の提示から、数直線や数字並べで調べる活動を通して3の倍数について学ばせる。さらに、ダンスの途中で2人1組に組みかえをするときに、うまくいく人数を考える問題場面の提示し、前時の方法で公倍数を見つけられそうだという見通しを持たせてから解決に向かわせる。2と4の公倍数の場面と異なり、3の倍数が2の倍数に含まれるとは限らないところに気づかせることが重要になる。ここでも前時同様、数直線や数字並べの活動を基に調べさせ、2の倍数と3の倍数の共通集合[$(2\text{の倍数}) \cap (3\text{の倍数})$]が公倍数になることを、ベン図に表して理解させる。さらに、3人1組から4人1組にダンスの人数を組みかえる場面(3と4の公倍数)を扱い、公倍数の理解を広げる。

数直線だけでなく、数字並べの活動を取り入れる意図は次の2つである。

- ①ベン図と関連させやすく、1つの集合とした数の見方が育てられる。
- ②倍数や公倍数の並び方の規則性や美しさなどに気づき、数に対する感覚をより豊かにできる。

4 本時のねらい

- ◎ 倍数・公倍数・最小公倍数の意味について理解することができる。 (知識及び技能)
- 2つの数の公倍数を求めることができる。 (思考力、判断力、表現力等)

5 学習過程 (第3時／11時間)

学習活動・内容	活動の様子
1. 本時のめあてをつかむ。 (1) 本時の問題を提示する。 ④ダンスで、3人1組から2人1組に組みかえをします。 全部で何人のときに、組みかえがうまくいきますか。	○ 前時の問題場面とどこが違うかを確認した。 「ダンスをする1組の人数がちがう」(事実) ※比べさせる 5K
(2) 本時のめあてを設定する。 ⑤2と3の公倍数はどんな数かな？	○ 前時の問題場面で、2と4の公倍数を調べて求めたことを想起させて、課題設定へつなげる。 「2と4の公倍数を調べて求めた」(方法)



2 2と3の公倍数を調べる。 (1)どんな方法で調べるか見通しをもって自力解決をする。 (2)「3の倍数」について知る。 (3)公倍数の見つけ方を共有する。 ダンスの組みかえがうまくいくのは <u>A. 6人、12人、18人、…</u> (4)「公倍数」「最小公倍数」について知る。	○ 前時の調べ方を想起させて見通しを持たせた。 「数直線や数字ならべて調べる」 (方法) ※決定させる 5K  「3に整数をかけてできる数を、3の倍数という」(事実)  ○ どのようにして調べたのかをペアや全体で交流させる。 「3の倍数の中で2の倍数にもなっている数を見つける」 (方法) ※共感・共有させる 5K ○ 3の倍数がすべて2の倍数とはかぎらないことを確かめ、ベン図で表した。 ○ 数直線の数に○をつけて倍数の並びを確認したり、ベン図に表して数の集合として確認したりした。 ○ 「2と3の公倍数の中でいちばん小さい数6が最小公倍数」 (事実)
3 本時のまとめをする。 ㊦ 2の倍数にも3の倍数にもなっている数を2と3の公倍数という。 2と3の最小公倍数は6。 4 適用問題 3と4の公倍数を調べる。 <u>A. 12人、24人、36人…</u> 5 本時の学習の振り返りをする。	㊦ 倍数・公倍数・最小公倍数の意味を理解し、2つの数の公倍数を求めることができている。(ノート・発言) ○ 3人1組から4人1組にダンスの人数を組みかえる場面を扱い、公倍数の理解を深めた。 ○ 2と3の倍数の調べ方を基にして調べさせた。 ○ 3と4の公倍数が3の倍数と4の倍数と共通する数であることや、最小公倍数が12であることを、数直線やベン図をもとに説明させた。(理由) ○ 「授業への取り組み」や「友達の考えのよさ」に触れた記述をさせた。

6 授業の考察

【成果】

- 前時の調べ方を想起させて見通しを持たせる時間を確保したことにより、一人一人が調べ方を決定することができ、意欲的に自力解決に取り組むことができた。
- どのようにして調べたのかをペアや全体で交流させたことにより、考え方を共感、共有し、自分も他の人の考えも大切にしながら話し合いを深めることができた。
- 振り返りの場面で、「授業の取り組み」や「友だちの考えのよさ」に触れた記述をさせたことにより、互いの考えのよさを認め合うことができた。

【課題】

- 問題の場면을捉えることに戸惑う児童がみられた。「3人組でも2人組でもぴったり組めるのは何人」とすると分かりやすかったと考える。また、偶数を想起させておけば、2の倍数が見つけやすかったと考える。

実践事例 3	リアクションや会話を広げる表現に目を向けさせるコミュニケーション活動
第 5 学年外国語活動	動に取り組ませることで定着を図る授業

令和元年 9 月 4 日 指導者 松本 優佳

1 単元名 Unit2 When is your birthday?(We Can! 1)

2 単元の目標

- (1) 他者に配慮しながら、好みや欲しいもの、誕生日について伝え合おうとする。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- (2) 誕生日について聞いたり言ったりすることに慣れ親しむ。また、活字体の大文字を書くことに慣れ親しむ。
【外国語への慣れ親しみ】
- (3) 祭りや行事に関するまとまりのある話を聞いて、世界にはさまざまな祭りや行事があることに気付く。
【言語や文化に関する気付き】

3 指導観

本単元では、自分や友だちの誕生日を通して、月日や日付の尋ね方の表現などに会う。導入として世界の行事や祭りの映像を見て、様々な文化や日本との違いなどに気付かせたい。また、リスニング活動、バースデーカードを作成する活動を通して、十分に「いつ」を尋ねたり答えたりする活動を行うが、もう一度最後にコミュニケーション活動に取り組ませることで定着を図りたい。ただし、同じ活動を二度繰り返すのではなく、今回はリアクションや会話を広げる表現にも目を向けさせ、会話そのものを楽しむという経験をさせたい。

4 本時のねらい

- 誕生日を伝え合ったり、バースデーカードの内容について尋ねたりしようとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

5 学習過程

学習活動・内容	活動の様子
1 あいさつをする。	 ○ 授業開始の姿勢や意識をそろえるよう声を掛けた。 ※そろえる<u>学びのルール</u> ◎ 一人一人に声を出させ、英語を学ぶ雰囲気を作り出した。 ※<u>声を出させる 5K</u>
2 Small Talk をする。	
3 Today' s Target を把握する。 ㊟バースデーカードを正しい相手に渡そう。	
4 活動の見通しを持つ。 ・ ワークシートを受け取り、記名する。 ・ 宛名が無く、誕生日の日付だけが書かれているバースデーカードを、どうすれば正しい相手に渡せるか考える。	○ 事前に板書しておいたものを、改めて確認させ、意識させた。 ※学習のめあての明示 ○ 英語でも日本語でも、どちらでも好きな方でメモを取って良いことを伝えた。 ○ 前時までに学習した、誕生日について尋ねる表現(When is your birthday?)を児童から引き出した。

映像を見て、どのように会話をすれば良いか考える。	○ バースデーカードの渡し方について2つのパターンを見て、どちらが相手が喜ぶ渡し方か、比べさせた。 ※比べさせる <u>5K</u> 
5 コミュニケーション活動を行う。 - 歩き回って自分が持っているバースデーカードの送り先の児童を探す。 - 相手を見つけたら内容について会話する。 パターン1 A: When is your birthday? B: My birthday is <u>April 26th</u>. A: Oh, I'm sorry. B: OK. パターン2 A: When is your birthday? B: My birthday is <u>April 26th</u>. A: Oh! Happy Birthday! Do you like(sports)? B: Yes, I do. A: Do you like(foods)? B: Yes, I do. A: Do you like(colors)? B: Yes, I do.	○ 日本語を使わずに英語で話すことに挑戦できるよう支援した。 ○ うまく会話を広げられている児童がいれば、褒めて全体で共有した。 ※共感・共有 <u>5K</u>  
6 本時の振り返りを行う。 ワークシートに記入する。 7 あいさつをする。	○ 早く活動が終わった児童がいれば、振り返りを行うよう指示した。 ※振り返り ○ 本日の活動の良かった点を褒め、達成感を味わわせた。

6 授業の考察

【成果】

- 前時までのバースデーカードを作成する活動では相手の好きなようにものを書くようにしたり、本時のカードを渡す活動では相手が喜ぶ渡し方を考えたりと、単元を通して相手を意識した活動ができた。
- 児童一人一人に声を出させ、英語を学ぶ雰囲気を作り出すことを普段から心掛けることにより、積極的に英語を話そうとするようになってきた。
- うまく会話を広げられている児童を称賛することにより、本人は満足感を得ることができ、他の児童はその児童を認め手本とするなど、互いに意欲を高めることができた。

【課題】

- “When is your birthday?” を用いて、相手を見つけることはできていたが、それから会話を広げたり質問したりできない児童もいた。何とか使える英語を用いて会話しようとする児童もいる中で、能力・意欲の差をどのように埋めていけるか考えていきたい。

(3) 人権が意識される環境づくり

①「砂遊び・学校探検（幼小連携活動・1学年と年長児）」

6月6日（木）に、坂下東幼稚園で砂遊び、坂下東小学校で学校探検を行った。1年生と年長児が仲良く砂遊びをしたり、1年生が年長児の手を引いて小学校を案内したりした。他の学年や年中児、年少児も年間計画に沿って様々な交流活動を行い、温かい人間関係を築くことができた。



②「児童会集会活動・ふれあいウォーク（縦割り活動・幼小連携）」

6月27日（木）の「児童会集会活動」では、縦割り清掃班ごとに各教室や体育館の様々なゲームを楽しんだ。10月10日（木）の「ふれあいウォーク」では、縦割り班で坂下町の商店街のお店の方が出すクイズに答えながら、地域の方々と触れ合った。学校に戻ってからは、坂下東幼稚園の園児と一緒にゲームやダンスをして、お弁当を一緒に食べるなどの交流活動を行った。異学年の班活動のよさを生かして、互いに協力し合い安全に楽しく活動するとともに、幼稚園との交流を通して、互いを思いやる気持ちを育てることができた。



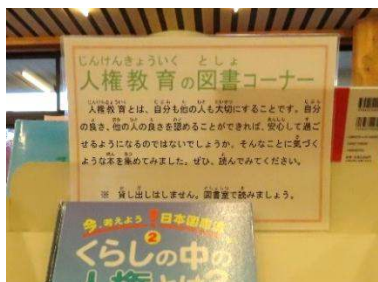
③「人権の花栽培活動（児童会・栽培環境委員会）」

7月8日（月）に、人権の花の苗移植作業をした。初めに、人権擁護委員の方々から、人権に関するお話をしていただいた。そして、栽培環境委員会の4・5・6学年の児童が、人権擁護委員の方々と一緒に、花の苗をプランターに植える移植作業をした。その後、栽培環境委員会が当番制で水やりをし、きれいな花を咲かせることができた。植物を大切にしようとする気持ちを養うとともに人権意識を高めることができた。



④「人権に関する図書コーナー」

図書室に、「人権に関する図書コーナー」を設置した。児童が人権に関する本を読むことによって、人権について知るとともに、人権について考え、人権を大切にしようとする気持ちを高めることにつながっている。



(4) 成果と課題

① 成果

- 人権教育の指定を受けて2年目、授業研究会や講演会等に参加し、本校でも授業実践を行うことで、教員の人権教育に関する理解がさらに深まった。
- 縦割り活動、幼小中連携活動、栽培活動等で、児童は互いに助け合い、相手を思いやる気持ちを養うことができた。
- 人権を意識した授業や現職教育のテーマ「学ぶ楽しさを実感し、学びあう児童の育成」の下、各学年学級で授業研究を行い、学び合い、教え合いなどの活動を通し、互いを認め合う気持ちを高めることができた。

② 課題

- 人権教育に関する様々な活動に取り組み成果を上げることができたが、今後も保護者や地域と連携しながら人権を意識した取り組みを継続していきたい。

2 会津坂下町人権教育実践の記録

(1) 幼稚園・小学校・中学校の実践事例

⑤ 坂下中学校の実践



1 坂下中学校の教育目標

知的好奇心にあふれ、郷土を愛する、たくましい若者を育む

- 1 自己に問いかけながら学び、考え、行動できる坂中生
- 2 他者（ひと）を認め、切磋琢磨し、共感できる坂中生

2 人権教育に関する目標

人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする生徒を育てる。

3 坂下中学校の取組

(1) 実践内容

月 日	内 容	備考
4 月 当初	「いじめ防止基本方針」についての周知 (教職員、生徒、保護者へ校長や生徒指導主事による)	職員会議 PTA総会 全校集会
4 月 9 日 (火)	人権擁護委員によるいじめ防止の呼びかけ	全学年
5 月 1 0 日 (金)	弁護士による「いじめと人権を考える」授業	1 学年各クラス
5 月、8 月、1 月	学校生活 (いじめを含む) アンケート実施	全学年
5 月 1 4 日 (火)	第 1 回 Q-U テスト実施	
6 月 2 0 日 (木) 2 7 日 (木)	第 1 回 Q-U 研修会 (各クラスデータ分析)	会津大 荻間澤教授 を講師に各学年
7 月 1 日 (月)	人権擁護委員による社会を明るくする運動	あいさつ運動
7 月 1 日 (月)	花友運動 (人権擁護委員寄贈の花の移植作業)	全校生有志
7 月 1 1 日 (木)	命を考える授業 (警察署員による)	2 学年
夏休み中	人権作文への取り組み	全校生
8 月 2 3 日 (金)	町人権教育講演会	町内全教職員
1 1 月 6 日 (水)	第 2 回 Q-U テスト実施	
1 1 月 2 8 日 (金)	町人権教育研究発表会	約 1 4 0 名の参加
1 2 月 9 日 (月)	第 2 回 Q-U 研修会	1, 2 年教職員
1 2 月 1 3 日 (金) 1 2 月 1 7 日 (火)	S C による人権教育講話～思春期～	3 学年
2 月 2 7 日 (木)	弁護士による人権講話	教職員
適宜	・ 全校集会における校長講話 ・ 体験活動の充実による絆作り ・ 人権に関するアンケート (全校生) ・ 人権感覚チェックリストの活用 (教職員)	

(2) 人権教育を意識した授業の実践

○ 現職教育における日常的取り組み

- ・ 人権に関するアンケートから「友達のよさを理解し、相手の考えや立場を大切にしている生徒」が多い一方、「自分のよさを理解している生徒、自分の考えや立場を大切にされていると感じている生徒」の割合は少ないことがわかった。
- ・ 普段の授業で、周囲から認められる機会や場を設定することで、生徒の自尊感情や自己有用感が高められ、さらに学校・学級における自分の居場所が確立され、それを足がかりとして学力向上、部活動等へ積極的に参加する生徒増えてくれると思われる。その結果、内面性が育成され、自分を認め、人を認める「自他の感覚」人権感覚が育成される環境が構築されることが考えた。

- ・具体的には、坂下町全体で「5つのK」を意識した授業を進めてきた。その中でも特に、自他の感覚を育成するため、「比べる」「共感・共有する」の2つに重点を置いて実践してきた。自分の意見を発表したり、他の生徒の発表を聞くことで、自分の考えだけでなく相手の考えを受け入れ、互いに認め、高め合うことによって、生徒の「内面性」を育んできた。

○ 研究発表会における授業実践（令和元年11月28日）

研究 主題「5つのKを基盤とした授業実践による、自ら学ぶ生徒の育成」
研究副主題「生きる力を身につけるための、生徒の内面性を育む指導の工夫」

第1学年 道徳 授業者 橋谷田 亨

- 主 題 名 迷いを乗り越えて 内容項目A-(1)自主、自律、自由と責任
教 材 名 「二人の約束」 出典：あすを生きる1（日本文教出版）
- 本時の目標
主人公の判断や行動を自分事として捉えさせることで、どんなに小さな行為でも、自分で考え、決めたことについて、責任をもとうとする態度を育てる。
- 人権教育の視点から
人権に関わる自己理解、他者理解に向けて、道徳的テーマで人間の生き方についての考えを深める際に、5つのKを適切に行うことで内面性の成長を図っていく。
- 本時の実践

段階	学習活動・内容 ・予想される生徒の反応 発問・テーマ	時間 形態	○教師の支援 ●評価＜方法＞ 【5K】
導 入	1 自分の生活を振り返り、問題意識を持つ。 「自分の判断や決断が迷ってしまうときはどんなときですか」 ・自分が少数意見の時 ・周りからどう思われるか不安なとき ・仲の良い友達が別の意見の時 ・仲間はずれや悪口を言われる可能性があるとき	2	○ 自分ごととして道徳的価値を捉えることができるような発問をし、生活経験を振り返らせる。 ○ 学習テーマを提示し、本時のねらいとする道徳的価値への方向付けを行う。
	2 本時の学習のテーマを確認する。 「自分で判断し、決定し、実行するにはどうしたらよいか」		
展 開	3 教材に触れ、あらすじを確認する。 (1) 教材「二人の約束」の範読を聞く。 (2) 2段階に分けてあらすじを確認する。 <段階1>ケンカ→二人の約束 「思ったことはちゃんと言い合おう」 <段階2>財布やソフトボール →ユウコが憎らしくなる。 ・一歩引いて考えるようにした「私」 ・相変わらず辛口の「ユウコ」 ・我慢している「私」 ・悪口や悪者扱いせず、かばうような口ぶりの「周囲」	1 2	○ 話の範読を3段階に分けて範読し、2段階目までを各段階ごとに要点をまとめ、あらすじを理解しやすくする。 ○ 段階1では「私」と「ユウコ」の性格をテンポ良く確認し、よりよい関係作りの末、二人の約束をクローズアップする ○ 段階2では、「私」「ユウコ」「周囲」について触れ、「私」の気持ちが迷う原因についてまとめる。
	4 主人公の気持ちや行動について考える。 「約束なんかしなければよかった」と思ってしまった「私」をどう思いますか？ <共感> ・「ユウコ」から注意されたことをちゃんと直そうとしている。 ・周囲からいろいろ言われたからしょうがない。 <迷い> ・「ユウコ」とは約束したけど、他の人とも上手く付き合えないうまいけない。 <反感> ・約束したんだから、伝えなきゃいけないことは伝えるべき。 ・自分の判断のせいなのに「ユウコ」のせいになっている。	2 5	○ 「私」の置かれた状況から、主人公について自分の感じ方をワークシートの「共感」「迷い」「反感」の3つの気持ち柱に①と記させ、理由を記入させる。 【K:決定】 ○ グループでの思考ツール「ミニ気持ち柱」に、名前を書いた付箋を貼らせ、グループ内のそれぞれの立場を可視化させながら、1分間ずつ考えを発表させる。 【K:共有・比べる/声を出す】

展 開	(1) 個人の考えを、理由を含めてワークシートに表す。 (2) 「ミニ気持ち柱」を用いてグルーブトークを行い、自分の考えや立場を示し、友達の考えや立場も確認する。 (3) 黒板の気持ち柱にネームプレートで自分の立場を示し、様々な意見を聞きながら他者理解をする。	(5) ○ 全員、黒板の思考ツール「気持ち柱」にネームプレートを貼らせ、一人一人の考えや思いを、強弱を含めて可視化させる。 (5) ○ 他の意見を聞き、立場や意見を変更してもよいことを伝える。 (15) ○ 多面的、多角的な協働学習になるよう、発表と議論をコーディネートする。 【K:活躍/決定/共感・共有/比べる/声を出す】 ○ 意見を記入し板書する。
	5 3段階目の話を聞き、再度主人公について考え、価値について深める。 「私」の失敗はどこだったかな？ ・約束を守っていないのは自分だった ・周りの評価を気にしすぎていた ・ユウコのせいにしてた ・もう一度話し合ってやり直す気持ち ※私のすごいところもあるよね。 【自律】→自分で考え・判断・実行→責任 →難しさ&大切さ →失敗から学び、新たな一歩へ	6 ○ ユウコの思いを知り、自分を客観的に見た「私」に再度焦点を当てることで、より自分ごととして自我関与させ、価値についての考えを深めさせる。 ○ 生徒の意見から、本時のねらいとする道徳的価値について簡単にまとめる。
終 末	6 本時の学習のテーマを確認する。 「自分で判断し、決定し、実行するために、大切なことは何だろう」 (1) 自分の考えをまとめる。 (2) 学習について自己評価する。 7 教師の説話を聞く	4 ○ 主人公を通してテーマについて学んだことをワークシートにまとめる。 ● 自分で答えを出すことは不安で難しきときもあるが、自分で考え、決めたことについて、責任をもとうとする考えや態度が見られたか。〈発言・ワークシート〉 1 ○ 生徒の意見から、失敗から学ぶ人間の強さが感じられるようなまとめをする。

5 授業の考察

(1) 自評

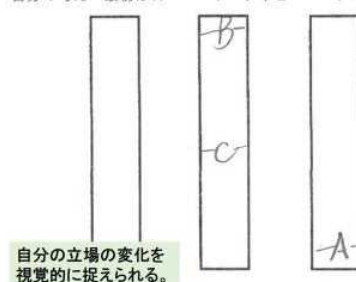
- 人権教育と道徳と並行して学級作りをした。
- 自分と他者とのかかわりや態度、姿勢の部分出道徳の授業で育てようとした。
- 議論の場で思考ツール「気持ち柱」を用いた。
- 気持ちとしては成長が感じられる。学校生活の中で、気づいたり活用したりを繰り返してくれるよう促したい。

(2) 指導助言(福島県教育庁義務教育課指導主事 藤原謙 先生) ＜授業全体について＞

- 生徒と向き合う、正対する、という姿勢は良い。
Tの発言が主ではなく、生徒の声を聞こうとしていた。
- ◎ 根底には人間関係づくり、クラスづくりがある。
教師の思いや願いがあった。
- 導入のテンポ○→迷いを引き出す。関連項目を書く→考えさせることをはっきり。
- ◎ 登場人物のイラスト紹介からのひと言→これから起きること 【思考ツール「気持ち柱」】に引きつけるミニテクニック T:「二人の間で何かが起こるので注目して聞いて下さい」
- ◎ 途中でテーマに立ち戻ることによってぶれない授業になる。
T:「あれ？どんな気持ちで約束したんだっけ？」「今日のテーマなんだっけ？」
- ◎ 考えを可視化する「思考ツール(気持ち柱)」のよさ
S:「考えが1 mm ずれました」→ここが勝負! T:【理由】【予想・想像】【拡散】などなど
- Teach (教える) から Catch (つかむ) へ



「気持ち柱」自分の気持ちや考えを確認していこう
自分の考え 最初はA → トーク中B → ラストC



1 題 材 「多様な性について考え、理解しよう」

2 本時のねらい

- (1) 多様な性 (LGBT) について理解することができる。
- (2) LGBT の立場になって、問題点や共生について考えることができる。

3 人権教育の視点から

- (1) 人権に関する基本的な知識についての理解を深める工夫

本題材では、LGBT について取り扱う。性的マイノリティという少数派や多様性について学び考えることにより、人権に関する基本的な知識についての理解を深める。

- (2) 生徒の内面性を育む指導の工夫

生徒の学習活動の中に「5つの K」を意図的に取り入れる。一人一人が活躍する場面や、お互いに共感・共有する場面、考えを比べる場面、自らの意思で決定する場面、声に出して自分の考えを相手に伝える場面を設定することで、生徒の内面性を育むようにする。

また、LGBT の立場になって彼らの抱える問題点を考えることにより、他者の気持ちに寄り添い、受け入れながら、自他を尊重する態度を養うことができるようにする。

4 本時の実践

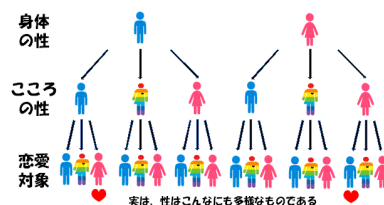
段落	学習活動・内容	時間	○主な支援・留意点 ●評価＜方法＞
導入	1. あいさつ 2. 事前アンケート結果を確認する。 3. 課題を把握する。 性には、どのようなものがあるだろうか？	1 5	○あいさつをする。 ○事前に行ったアンケートの結果を提示する。 ○課題を提示する。
展開	4. 性の4つの要素を知り、自分の性について考える。 (1) 性の4要素とは何かを知る。 (2) 性の4要素の図を基に、自分の性について考える。 5. 「LGBT」という言葉と意味を知る。 性的マイノリティについて理解する。 ・人口の3～5%（5～8%）の人がLGBTと感じている。 6. 参考資料の人達の性自認例に触れ、性の多様性について知る。 (1) 資料を参考に、それぞれの性自認がLGBTのどれに該当するかを話し合う。 (2) LGBTの枠組みに当てはまらない性もあることを知る。(性の多様性) 7. LGBTの人達の立場になり、日常生活での問題点について考える。 (1) VTRを見て、問題点を考える。	3 6 5 20	○性には4つの要素があることを示し、自分の性について考えさせる。 ○4要素＝①身体 ②心 ③表現 ④恋愛対象 ○パワーポイント (PP) で4要素の図を示す。 ・次の点に注意させる。 ★結果を紙に書かない。 ★班のメンバーや友達に話したりしない。 ○「LGBT」という言葉を提示し、意味を説明する。 ・L … Lesbian (レズビアン) ・G … Gay (ゲイ) ・B … Bisexual (バイセクシャル) ・T … Transgender (トランスジェンダー) ○LGBTであることをカミングアウトしている人達の性自認例を提示する。 ○班のメンバーで話し合いを行わせ、意見を交換させる。 【K:共感・共有】 【K:比べる】 ○班のメンバーで話し合いを行わせ、意見を交換させる。 【K:共感・共有】 【K:比べる】

	(2) VTR の場面以外で考えられる LGBT の人達が直面する問題点を話し合う。 可能であれば解決策についても考える。 ①学校生活での場面 ②社会生活での場面 (3) 他の班の意見と比較する。	・ KJ 法を用いて話し合わせる。 ①問題点を考えさせる。(青色の付箋) ②解決策を考えさせる。(黄色の付箋) ③各班にホワイトボードを配付し、主なものを記入させ、黒板に貼らせる。 ④各班の意見をいくつか紹介する。
終末	8. LGBT をめぐる社会の動きを知る。 (1) レインボーフラッグ (2) 啓発活動 (3) 相談窓口 9. 本時の授業を振り返る。 (1) ワークシートに①、②を記入する。 ①性の多様性について学んだこと。 ②身の回りに LGBT の人がいた場合、どのように接することができるか。 10. あいさつ	3 ○ PP で資料を提示し、説明する。 ・ LGBT (FTM / パンセクシャル) の体験談を読み聞かせる。 6 ○ワークシートを配付し、記入させる。 ●性の多様性についての知識を得るとともに、性的マイノリティの人々に対する理解を深めることができたか。 ＜観察・ワークシート＞ 1 ○あいさつをする。

5 授業の考察

- (1) 性別は男女の区別だけでなく、4つの要素(①身体の性、②心の性、③表現の性、④恋愛対象の性)が関係していることを示し性の多様性を理解させることができた。
- (2) VTR を用いることにより、LGBT の人達が「学校生活」や「社会生活」の場面で抱える問題点について考える際に、イメージさせやすかった。本校職員が実際に VTR に出演することにより、生徒の興味・関心を引き出すことができた。
- (3) LGBT の人達は、日常生活で様々な問題点を抱えていることを理解できた生徒が多かった。また、LGBT という言葉自体を初めて知ったという生徒も多かった。問題を解決することも大切だが、まずは LGBT = 性の多様性を知ることができた授業であった。
- (4) 指導助言 会津教育事務所指導主事 佐藤 容子先生

- ・ 県内の LGBT の研修がなかなか行われない現状で、今日の授業は貴重で会った。昨年度も同様の授業が行われたが、内容がバージョンアップされ、学校全体で取り組んでいる様子がうかがえた。
- ・ いじめ、LGBT と個別の問題ではない。これらを入り口として人権教育が行われている。学活は、自己決定させることが大切で有り、「自分はどうすべきか？」まで考えさせていたことが良かった。
- ・ 子どもにとって、LGBT は知らなければならない知識である。これから社会に出るために必要な知識を与え、実践力を身に付けさせて欲しい。



1 単 元 名 Unit 6 Striving for a Better World (NEW HORIZON English Course 3 [東京書籍])

2 本時のねらい

(1) 接触節について正しく理解し、人やものについて詳しい情報を加えて説明することができる。

(2) 登場人物について正しく理解することができる。

3 人権教育との関わり

【視点①】自己存在感を持たせる支援を工夫する。(活躍、声)

◎ペア活動や発表など、英語を話す機会を多く設定する。

◎自分の考えを伝える場面を設定する。

【視点②】共感的人間関係を育成する支援を工夫する。(共感・共有、比較、声)

◎課題によってペア活動や班での活動など学習形態を工夫する。

◎他の意見等を聞いて、共感したり、新しい考えに気づいたりする場面を設定する。

【視点③】自己選択・決定の場を工夫して設定する。(比較、決定、声)

◎自分と他の意見を比較し、考えを深められるような活動を設定する。

4 本時の実践

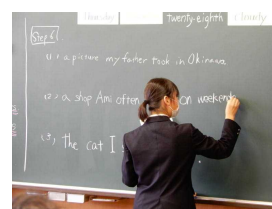
段階	学習内容	時間	◎主な支援 ●評価 [方法] ★人権教育との関わり
課題把握	1. あいさつ 2. 復習 (Happy Game) 3. 課題提示・解説 文を用いて名詞を修飾する形	1 4 2	◎あいさつだけで終わらず、簡単な質問を投げかけ、答えさせることで、英語学習の雰囲気を作る。 ◎本時に学習する文型を理解しやすいように、「現在分詞を用いた後置修飾」を復習させる。 ◎ペア活動で行わせることで、全員が声を出す機会とする。【K:発声】 ◎「現在分詞を用いた後置修飾」との共通点や相違点を確認しながら簡単に説明する。
課題追究	4. 「接触節」の確認・練習 (1) 基本文の確認・説明 (2) 英文和訳 (発表) (3) 部分英作文 (4) ペア活動 (5) 並べ替え (6) リスニング (発表)	(20) 1 3 3 5 5 3	◎ペアで確認させる。【K:発声】 ◎代表の生徒に答えを発表させる。【K:活躍】 ◎代表の生徒に答えを板書させる。【K:活躍・比較】 ◎ペア活動で行わせることで、全員が声を出す機会とする。【K:発声】 ◎代表の生徒に答えを板書させる。【K:活躍・比較】 ●接触節の英文を正しく理解しているか。[発表] ◎代表の生徒に答えを発表させる。【K:活躍】
・ 解決	5. 本文の内容把握 (1) 新出語句の確認・練習 (2) 単語テスト (3) 本文の確認	(20) 3 2 2	◎生徒を指名し答えを推測・発表させる。【K:活躍】 ◎下位生徒への支援となるように班で行う。★視点② ◎代表の生徒に答えを発表させる。【K:活躍】 ●接触節の英文を正しく理解しているか。[発表]

	(5) 音読練習 (6) 登場人物の確認	3 5	◎ペア活動で行わせることで、全員が声を出す機会とする。【K：発声】 ◎班で登場人物の出身地・職業・キーワードを話し合い、推測させる。【K:共有・決定】★視点②③ ◎代表の生徒に答えを発表させる。【K：活躍】
まとめ	6. 本時のまとめ ○接触節の確認 7. 次時の連絡 8. あいさつ	2 1	◎ペア活動で行わせることで、全員が声を出す機会とする。【K：発声】

5 授業の考察

(指導助言) 福島県教育庁義務教育課 指導主事 渡部真喜子 先生

- ① 人権との関連、難しかった。「人権」という言葉は、小学校外国語活動研修 ガイドブックには具体的に記載されている。学習指導要領には記載されていないが、外国語には記載されている。今の時代ならではの言葉だが、人権と教科は密接に関連している。
- ② 人物の写真を見て茶化したことや、単語を読み間違えたのを見てみんなで笑ったことをそのままにしたことが残念だった。それこそが人権教育につながるのではないか。
- ③ 英語は先生のまねをして覚えていく。授業中はできるだけ英語を使い、その上で自己表現の練習を増やしていけば、あの子たちならもっと伸びる。
- ④ 代表の生徒だけでなく、できるだけ多くの生徒が賞賛されるような場面や機会を増やしてほしい。



(3) 人権が尊重される環境づくり

① 人権教室の実施

ア 生徒

【1 学年弁護士による人権教室】 【2 学年警察署員による命の教室】 【3 学年 S C による思春期講座】



イ 教職員 弁護士による人権講話の実施

② Q-U研修会 (会津大莉間澤先生との各学級の分析)



(4) 成果と課題

① 成果

○「5つのKを基盤とした授業実践」について

- ・1学期末と2学期末に全校生徒を対象に実施した『学習アンケート』の結果から、学び合いに関する「話し合い活動を通して、自分考えを深めたり広げたりできている」の項目が全ての学年で向上していた。教師側が5つのKを意識して授業をコーディネートしたことで、生徒の学習意欲の向上につなげることができた。

○「自ら学ぶ生徒」について

- ・研究授業の検証と学習アンケートの結果から、授業に前向きに取り組む生徒が増えていることが分かる。どの学年においても8割前後の生徒が「家で、学校の授業の予習や復習をしている」「自分の意見や練習の成果を発表できている」と答えており、自ら学ぶ生徒の育成につながったと考えられる。
- ・5つのKを授業に取り入れることにより、生徒の活躍の場を“具体的に”増やすことができた。その結果、生徒に「達成感」や「成就感」を与え、学習意欲の向上と自ら学ぶ生徒の育成につなげることができた。

○「生徒の内面性を育む指導の工夫」について

- ・学習に関するアンケートの結果、「話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりできている。」の項目において、全学年で1学期と比べ2学期のポイントが上昇した（平均87.6%）。このことから、各教師が副主題を意識し「生徒の内面性を育む」ために5つのK、特に（比べる、共感・共有する）を取り入れた授業を実践したことが分かる結果となった。
- ・Q-Uテストの結果、『学校生活満足群』の生徒の割合が、全学年とも全国平均を大きく上回った。『非承認群』の生徒の割合も、全学年とも全国平均を下回っている。生徒の内面性が育った結果、お互いに認め合う生徒が増え、学級内に自分の居場所があり、意欲的に学校生活を送っていると考えられる。
- ・人権に関するアンケートでも、1学期にアンケートを行った時点で、各項目においてどの学年も高いポイントであった。その中で、2学期に実施したアンケートの結果においても、多くの項目で更にポイントが増加した。このことから、今年度学校を挙げて取り組んできた人権教育が着実に成果を上げたことがうかがえる。このことは、不登校生徒数の減少、特に新出不登校生徒の減少という形でも表れている。

② 課題

○「5つのKを基盤とした授業実践」について

- ・「学びのスタイル」についての教師アンケートの結果、「まとめとめあての整合性（振り返り）」の項目は、昨年度に引き続き3.0に満たなかった。教科の特質にもよるだろうが、教師の授業コーディネート力にまだ課題が残る。
- ・各教科、各単元において、どの場面でもどのKを使うのが最も効果的であるかを考え、実践することが大切である。その結果、教師自身の授業コーディネート力が向上し、生徒の学力向上へとつながることが期待される。

○「自ら学ぶ生徒」について

- ・授業へ取り組む姿勢に関しては、5つのKを基盤とした授業実践の成果もあり、意欲的に学習する生徒が増えている。しかし、学習に関するアンケートの結果、1学年で「家で、学校の授業の予習や復習をしているか。」「自分の意見や練習の成果を発表できているか。」の2項目に関して減少した。今後は、家庭学習の内容や各教科における学習形態、発表場面の設定を工夫していく必要がある。

○「生徒の内面性を育む指導の工夫」について

- ・人権に関するアンケートの結果「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか。」の項目に関して、どの学年も100%には達しなかった。Q-Uテストの結果を見ても『侵害行為認知群』『学校生活不満足群』に該当する生徒がいるのが現状である。今後も「生徒の内面性を育む指導」を工夫しながら、全ての生徒が安心して学ぶことのできる学級・学校づくりに努めていく必要がある。



2 会津坂下町人権教育実践の記録

(2) 会津坂下町人権教育実践事例

- ① 人権教育推進のための実践例
- ② 会津坂下町人権教育講演会
- ③ 会津坂下町基礎学力向上推進会議
授業研究会（人権教育授業研究会）・
人権教育講話会
- ④ 会津坂下町人権教育研究発表会
- ⑤ hyper-QU の活用



① 人権教育推進のための実践例

人権教育推進のための環境づくり

会津坂下町として取り組んでいる「人権教育推進のための環境づくり」として一覧にまとめた。幼小中単独で実践している内容もあるが、共通実践事項として、“一貫性”“共通性”“継続性”をもって町全体として取り組むことで、自分も他の人も大切に、安心して過ごせる園・学校を作ることができると思う。

No.	活 動 名	主 な 内 容	幼	小	中
1	いいことみつけた	保護者にわが子のいいところを書いてもらい、壁面に掲示し、自他のよさについて認め合う活動。			
2	わらべうた遊び	地域に伝わる「わらべうた遊び」を行う活動。			
3	ホワイトボードを活用した予定表の掲示	文字が読めなくても、絵などを表し、誰でも予定が分かるようにする活動。			
4	米ぬか雑巾で床みがき	保護者手作りによる米ぬか雑巾で床を磨き、みんなで園舎をきれいにしようとする活動。			
5	お誕生日会	毎月1回の誕生日会を行い、生まれてきたことへの感謝の機会とする活動。			
6	祖父母感謝会	祖父母を招待し、触れ合うことで感謝を表す活動。			
7	ありがとう郵便	「ありがとう」の気持ちを友達に届け、思いやりや感謝の気持ちを養う活動。			
8	人権コーナーの設置	人権についての知識や理解を深めるための環境整備。			
9	集団登校（地区児童会）	上級生が下級生の世話をしながら、登校したり、地区の行事に参加したりする活動。			
10	弁護士によるいじめ防止講話	福島県弁護士会による「いじめ防止出前授業」の実施。（中学1年）			
11	命を考える授業	警察署員による命を考える授業の実施。（中学2年）			
12	スクールカウンセラーによる思春期講座	スクールカウンセラーにより思春期講座を実施。（中学3年）			
13	人権についての教職員研修	弁護士による教職員対象の人権講話の実施。			
14	人権作文コンクールへの参加	全校生徒が人権作文コンクールに参加することにより「人権」について考えさせる活動。			
15	生き物とのふれあい（飼育活動）	生き物と触れ合うことを通して、生命の尊さについて考えさせる活動。			
16	伝統野菜の収穫や文化芸能体験	地域の一員として、地域に伝わる伝統野菜や文化芸能に触れる活動。			
17	縦割り班活動（異学年交流）	異学年交流を通して、互いのよさについて知ることができる活動。			
18	人権に関する図書コーナーの設置	人権に関する本を読むことにより、人権について知り、考え、大切にしようとする気持ちを高める活動。			
19	地域活動（クリーン作戦、資源回収）	地域の一員として、地域の清掃をしたり、資源回収の手伝いをしたりする活動。			
20	人権擁護委員による人権啓発活動	町人権擁護委員による人権啓発活動の実施。			
21	あいさつ運動	登園・登校時に、あいさつをし、「あいさつ」を広めていく活動。			

22	人権の花運動	花を育てることで、生命の尊さを実感し、豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得させることを目的に実施。			
23	異校種間連携活動（幼小・幼中・小中・幼高・小高・中高）	一つの学園構想のもと、異校種間の連携をより一層重視してきた活動。			
24	P T Aによる奉仕活動	幼稚園・小中学校のP T Aによる草刈り等の奉仕活動。			
25	命を守る活動	計画的に交通安全教室、避難訓練等を行うことにより、命を大切にする、命を守る行動ができるようにする活動。			
26	地域の登下校の見守り	地区見守り隊による園児・児童・生徒の登下校を見守る活動。			
27	地域を知る活動の実施	園児・児童・生徒が地域を知るための活動を積極的に教育課程に組み込み実施。			
28	本の読み聞かせ	読み聞かせボランティアが本の読み聞かせを行うことにより、本に親しませる活動。			
29	会津坂下町「学びのスタイル」を意識した保育・授業の実践	自分も他の人も大切にする保育・授業を実践するために「5つのK」（ か 活躍させる）（ き 共感・共有させる）（ く 比べさせる）（ け 決定させる）（ こ 声をださせる）を大事にした保育・授業を実践。			

実践事例1	㊦ 伝統野菜の収穫や文化芸能体験
幼・小	地域の一員として、地域に伝わる伝統野菜や文化芸能に触れる活動。

幼	小	中
---	---	---



伝統野菜である小菊カボチャを高校生に教えてもらいながら栽培したり、和太鼓の演奏の仕方を地域の方々に教えてもらったりした。安心して過ごせる園・学校を作るためには、地域との連携が不可欠である。

実践事例2	㊦ 人権の花運動
幼・小・中	花を育てることで、生命の尊さを実感し、豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得させることを目的に実施。

幼	小	中
---	---	---



町人権擁護委員と人権の花運動を実施。みんなで協力しながら花の栽培を行うことで、生命の尊さを実感し、思いやりの心等を体得させることができる。

実践事例 3	㊸ 異校種間連携活動
幼・小・中	一つの学園構想のもと、異校種間の連携をより一層重視してきた活動。

幼	小	中
---	---	---



幼稚園児が小学校に出向き学校探検を行ったり、中学生が幼稚園児との交流を行ったりする異校種間連携を、子どもの育ちと学びをつなぐ「一つの学園構想」のもとで行ってきた。異校種間連携を活発に行うことで、互いに思いやりの気持ちや優しい気持ちをもって接することができ、自他を大切にする人権意識が高まった。

実践事例 4	㊹ 会津坂下町「学びのスタイル」を意識した保育・授業の実践
幼・小・中	自分も他の人も大切にする保育・授業を実践するために「5つのK」(か 活躍させる)(き 共感・共有させる)(く 比べさせる)(け 決定させる)(こ 声をださせる)を大事にした保育・授業を実践。

幼	小	中
---	---	---

みんなの前で発表。
『声を出させ、活躍させます』



ペア学習で友だちと交流し、友だちの考えに
『共感させます』



みんなで相談し
『決定させます』



自分の考えと友達の考えを
『比べさせます』



会津坂下町「学びのスタイル」を意識した保育・授業を町内幼稚園、小中学校の全教員が行っている。その中でも特に、教師のコーディネートとして、「5つのK」を大事にした保育・授業を行い、互いのよさや可能性を認め合う活動を通して、自分もそして他の人も大切にする保育・授業を実践している。

② 令和元年度会津坂下町人権教育講演会

- 1 日時：令和元年8月22日（木）13：15～15：00
- 2 会場：道の駅「あいづ 湯川・会津坂下」交流促進施設 会議室
- 3 講師：法務少年支援センター仙台所長 紀 恵理子 様
- 4 演題：心をはぐくむ～問題行動の理解と支援～
- 5 講演会の様子



6 感想

- 少年鑑別所、法務少年支援センターについて、取り組みや対応などがわかりとても勉強になりました。子との関わり、親への援助など、向き合う中で、「問題解決の答えではなく、解決力のサポートを」ということがとても心に残りました。解決力のサポートをいつでもできるように、自分自身の力を高められるように、日々勉強していきたいと思います。
- 経験の少ない子どもにとっては、生きづらさの壁にぶつかった時、どうしたらよいか分からなくなるのは仕方がない。周りの大人が気付いてあげることや子ども自身が大人に伝えられるような環境を整えたり、支援したりすることが大切だと感じました。最後の方の「親への援助」の話、「連携、組織的対応」の話は、日頃から大切なことだと自分でも実感しています。頭では考えられるのですが、スムーズに進めていけるように組織的に動けるように努力する必要があると思いました。
- 印象に残ったことがいくつかあります。生徒が問題を起こした時、自分としてはよく事実の確認に力を入れるが、その時に生徒がどう感じ、どういうふうに見て、どう感じているのか、その辺のことにもっと目を向けていかなければならないと感じました。支援者の視点から、問題の指摘のみ、説教は効果なし、本当はどうなりたいのか、何をしたいのかを本人と一緒に考える。このことを強く感じ今後にかしたい。「怒りは敗北」大切です。身に染みて感じます。親への援助、「まずは親への労いの言葉が大事」気をつけなければと感じました。
- なぜそういった行動をしてしまうのか、その背景や思いを考えることが大切だとわかりました。すぐに子どもが変わることを期待したり、無理やり変えようとするのではなく、小さな成長を認めたり、本当はどうしたいかを一緒に考えることを心がけていきたいです。

③ 令和元年度会津坂下町基礎学力向上推進会議授業研究会（人権教育授業研究会）・人権教育講話会

- 1 日時 : 令和元年9月4日（水）13:15～16:40
- 2 会場 : 会津坂下町立坂下東幼稚園、会津坂下町立坂下東小学校
- 3 公開授業 : 幼小連携・生活科、外国語活動、算数科、学級活動
- 4 人権教育指導助言者 : 福島県教育庁義務教育課指導主事 藤原 謙 様
福島県教育庁会津教育事務所主任指導主事 博多 弘泰 様
福島県教育庁会津教育事務所指導主事 平塚 学 様
喜多方市立慶徳小学校長 石田 秀喜 様
湯川村立湯川中学校教頭 鈴木 雅彦 様

5 分科会の様子



【 外国語活動 】



【 算数科 】



【 学級活動 】



【 幼小連携・生活科 】

6 授業の感想

<幼小連携・生活科>

- 小学生と幼稚園の幼児が関わり合うことでもたやす育ちや気づきが多かったと思う。地域の人や異年齢と関わる機会を教師がつくっていく役割は大切だと思った。授業では、子どもたちの声を共感共有し、代弁している姿があった。そのような教師が子どもに寄り添う姿を参考にしていきたい。
- 2年生と年長児がとてもあたたかい雰囲気の中で取り組めていたと感じました。2年生がただ、年長児に「やってあげる」ではなく、「できるように手助けしてくれる」姿が見られ、成長と日々の学校や生活の中での経験が積み重ねられていると思いました。小学校と幼稚園の職員同士が何度も打合せをして進めていった授業の成果が出ていたと感じました。

<外国語活動>

- 子どもたちが楽しそうに授業に取り組んでおり、先生のこれまでの準備に頭が下がりました。「外国語はとにかく耳馴れさせること」との指導の先生の話聞き、私も子どもと共に学んでいきたいと感じました。
- 指導者の「OK」「very good!」等、子どもたちにかける言葉がとても心地よく、活動的な授業は、あっという間に終了した。見ていて大変楽しく、気持ちのよい授業でした。

<算数科>

- 子どもの声からつくる算数の授業でした。発問の流れも授業もすばらしかった。子どもを活動させ、しっかりまとめているができた授業でした。見習いたいです。
- 会津坂下町の学びのスタイルをもとに授業が進められていた。子どもの意欲を引き出し、活発な授業になっていた。自然と子どもたちの意見が出ていて、進められていたので、とてもよいと思った。

<学級活動>

- いじめの授業について、導入では前時の活動を振り返り、資料提示もありよかったと思います。先生の行動宣言もあり、「先生がみんなを守ります」の言葉が印象的でした。担任の強い思いを感じました。繰り返し子どもたちに伝えていくことが、いじめをなくす、見つけたら仲裁者になる子を育てていくことにつながっていくと思いました。
- 取扱いが難しい「いじめ」についての授業を見せていただき、様々なことを学ぶことができました。本音で語ることはなかなか難しいことですが、外に出せない内なる思いを少しでも引き出すこと、いじめは絶対にやってはいけないことを今後も指導していきたいと思います。

7 人権教育講話会

- 演題：人権教育の視点から授業を考える
 - 講師：福島県教育庁義務教育課指導主事
 - 講話会の様子
- ※アニメ「めぐみ」視聴
藤原 謙 様



8 人権教育講話会の感想

- 人権教育を難しく考えていました。5Kを意識した保育・授業が人権につながっているということとても安心しました。5Kについて詳しく説明していただいたので、これからは5Kを意識しながら、人権の視点も大切に、保育・授業をしていきたいと思います。

- 人権の目標は、自分の大切さとともに他の人の大切さを求めることを再確認し、また、人権が尊重される授業づくりの視点である5Kについて深く学ぶことができた。「よい授業は、よい人権教育である。」ということを知り、これからは5Kを大切に、子どもたちの資質や能力を伸ばせる保育を行っていききたい。
- 授業に向けた教師の取り組み方や子どもとの向き合い方など、明確に見ることができた。また、教師自身が人権について深く学び、それをわかりやすく子どもたちに伝えていくこと、考えさせていくことが大切になってくると感じた。
- 5Kにしっかり取り組んでいくことが人権教育につながることを感じた。LGBT、以前の学校でそう自認する生徒がいたが、これからはどの学校でもありえる問題になりつつあると感じている。
- 「よい授業は、よい人権教育である」子ども達一人一人に気持ち新たに接していきたいと思います。

④ 令和元年度会津坂下町人権教育研究発表会

- 1 日時 : 令和元年11月28日(木) 13:00～16:45
- 2 会場 : 会津坂下町立坂下中学校
- 3 公開授業 : 道徳科、学級活動、英語科
- 4 指導助言者 : 福島県教育庁義務教育課指導主事 藤原 謙 様
 福島県教育庁義務教育課指導主事 渡部真喜子 様
 福島県教育庁会津教育事務所指導主事 佐藤 容子 様
- 5 分科会の様子



【 道徳科 】



【 英語科 】



【 学級活動 】

6 授業の感想

<道徳科>

- 子どもたちの学びに向かう姿勢、そしてお互いの意見を聞き合う姿に本当に感動しました。普段からの関わりの深さと教師と子ども、子どもと子どもの人間関係がしっかりと確立していることが伝わってきました。子ども一人ひとりの考えを持たせる時間の確保、他者との関わり（対話）の中で多面的・多角的な見方や考え方をさせるための思考ツールの工夫等、本当に参考になるものばかりでした。
- 決まった子だけが話さない、全員が自分の考えを持って発言できるところが、今までの学級づくりの結果なのだと感じました。グループ活動の時も一人一人が柱に付箋を貼り、意見を言っていたので、とても参考になりました。今、自分はどこにいるのか、授業後自分はどこに変化したのか、子どもたちの考えがわかるような工夫を今後も行えるようにしていきたいです。板書は特に勉強になりました。とても内容の深い楽しい雰囲気のある授業をありがとうございました。
- 授業を参観して感じたことは、先生と生徒の関係がよいということです。先生の優しい言葉かけ、一人一人を受け入れている姿が印象的でした。その中でも、学びのスタイル5Kがしっかりとされていました。とても素敵な授業ありがとうございました。

<学級活動>

- L G B Tについて学ぶことは、性の多様性について学ぶことかもしれないが、人間の生き方の多様性について考える時間になると思った。いろいろな人がいて、いろいろな生き方があることを理解することが人権教育であると考え。担任としては深い知識がないと授業できないし、授業を進める上でも担任の人間性や人柄も大切だと思った。
- L G B Tについての知識を得ることだけを目的とせず、アンケート等を活用して自分事として捉えさせ、グループで話し合ったことで、生徒のL G B Tに対する理解をしっかりと深めることを目的とした授業が実践されていたように思いました。
- 性についてオープンに話し合い、子ども達からも活発な意見や積極的な発言が見られ驚いた。このような授業があることで、L G B Tだけではなく、様々な方々の立場になって気持ちを考えられるようになると思う。

<英語科>

- グループ、ペアでの活動がたくさん取り入れられており、子ども達が発言したり、活躍する機会が多くありよかったと思います。
- グループで授業することで、子ども達が楽しく、不安な気持ちをあまり持たずに、授業に参加できるのだと思った。また、自分たちで決めたグループであるため、声も大きく、たくさん出ていて、英語の習得にもつながっていくのではないかと思った。先生が生徒の発言に対し「good! イイネ!」などと声をかけたり、生徒一人一人に合わせて質問したりして、5Kを大切にした（人権を意識）援助、指導をみることができました。勉強になりました。
- 英語でどのように人権教育の授業が展開されるのか？と興味があり参観しました。ペア活動を多く取り入れ、共感したり、他者の意見に気づかせたりすることで、推進テーマにつながっていることを感じました。生徒同士が教え合う姿も多く見られました。テンポのよい授業の進め方、クイズ形式で意欲的に参加できる授業形態などの工夫がなされていて、途中途中で状態をそろえる場面もあり、素晴らしい授業だと思いました。

7 講演会

- 演題：震災、命、絆
- 講師：フリーアナウンサー 大和田 新 様
- 講演会の様子



8 講演会の感想

- 福島県に住んでいるのに、東日本津波原発大震災の大変なところから目を背けていました。正しい情報を伝えていくこと、現状を私自身が理解すること、命の大切さを伝えていくことをこれから行っていきます。
- 忘れかけていた震災のことをもう一度振り返り、命について考えることができた。我が子やクラスの子に命の大切さや震災のことについて本当のことを伝えていきたい。
- 相双地区に住んでいる者として、また、教育に携わる者として今日の講演を拝聴でき、大変感銘を受けたとともに、使命感がわいてきました。私たちが被災者の心の奥にある、知り得なかった思いを大和田様に代弁していただきました。まだまだ、悲しみや苦しみに包まれた家庭にいる子ども、保護者が多くいるということを心に留めながら、被災地に生きる者としてできることを考えていきたいです。
- 震災について語られることが少なくなった今、改めて8年前のことを思いました。復興、復興と叫ばれて福島の再興が当たり前になっていましたが、大和田さんが話されたように、家族をなくした人たちの思いは変わらないまま、悲しみが続いていることを痛感しました。伝えていく責任を持ち、防災に関する意識、知識を私たち教員が子ども達に伝えていくことの必要性を強く感じました。命の重さ、命をつないでいくことの大切さ、色々なことを考え直す大変よい機会をいただいたこと、本当にありがたく思います。
- 私は震災について何を知っていたのだろうと思う講演でした。「被災者責任」の気持ちを胸に、多くの人に伝えていかなければいけないと思いました。
- 防災教育として、8年8ヶ月前の大震災をまだ生まれていなかった子どもたちに伝えていくこと、過去のことを今のこととして教える大切さを学びました。また、福島の中でも震災時の状況が違うこと（知らない情報）を講演をとおして知ることができました。
- 震災について知らない子ども達と過ごしています。どう伝えればいいのか、とても悩みます。伝える以前に、自分はどれだけのことがわかっているのか？どう考えているのか？命について「小さいからわからないだろう」ではなく、話をしていく機会ももってみたいと思いました。自分も他者も大切にできる子どもを育てられるよう子どもとの関わりを見直していきたいです。

⑤ hyper-Q Uの活用

1 坂下南小学校の取組

年2回 hyper-QU を実施し、よりよい学級集団づくりや児童理解などに活用している。

また、実施するごとに会津大学教授 荻間澤先生と懇談し、各学級の結果から具体的なご指導をいただき学級経営に生かしている。



2 坂下東小学校の取組

○ 5月21日（火） … 第1回 hyper-QU を実施

○ 7月11日（木） … 校内 QU 研修会を実施し、会津大学教授 荻間澤先生から分析結果の見方やよりよい学級集団づくりのためのポイントなどを具体的にご指導いただいた。

○ 10月 3日（木） … 第2回 hyper-QU を実施

○ 10月29日（火）・11月 5日（火）

担任が個別に荻間澤先生よりご指導いただいた。

これらの研修会やご指導を生かして、望ましい学級集団づくりに努めている。



3 坂下中学校の取組

会津大学教授 荻間澤先生と時間を分け各学年の研修会を行った。中学校では、担任ばかりでなく担当学年教員全体で指導するため、各学年担当教員（担任、副担任）と荻間澤先生により、一クラスずつ分析し、学級全体の様子は勿論、気になる生徒についての情報共有を行った。そのため、学年全体で指導する体制が確立され、大変有効であった。





2 会津坂下町人権教育実践の記録

(3) 人権に関するアンケート集計結果



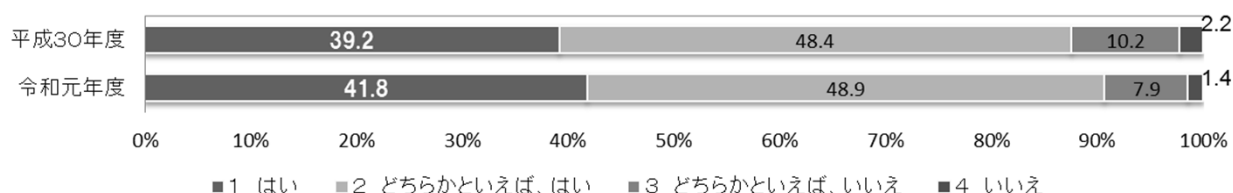
人権に関するアンケート集計結果

町内の児童生徒、保護者、教職員を対象に人権に関するアンケート調査を行った。設問については、10項目に絞り、それぞれの項目を児童生徒、保護者、教職員とリンクさせることにより、比較できるようにした。また、2年間の中でその変容を見ることとした。

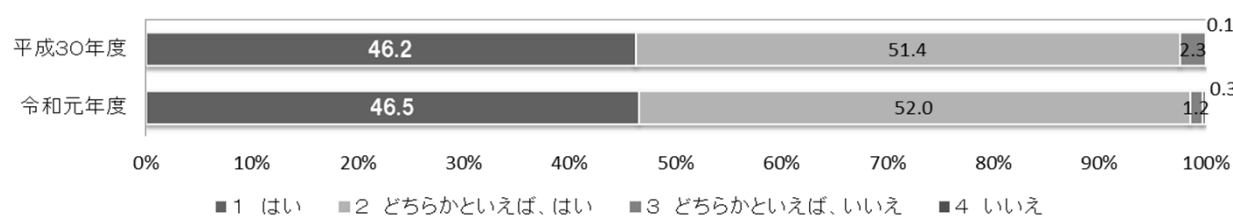
- | | |
|----------------------|----------------------------------|
| ○ 調査対象：町内小学3年生～中学3年生 | 1年次（平成30年7月調査）
2年次（令和元年10月調査） |
| ○ 調査対象：町内小・中学校保護者 | 1年次（平成30年9月調査）
2年次（令和元年10月調査） |
| ○ 調査対象：町内幼稚園・小中学校教職員 | 1年次（平成30年7月調査）
2年次（令和元年10月調査） |

平成30年度と令和元年度の変容をみると、設問や調査対象によって多少の差はあるが、令和元年度の方が概ねプラス回答が多くなっている。特に、児童生徒の回答においては、プラス回答が多い。2年間の研究の成果であると考える。

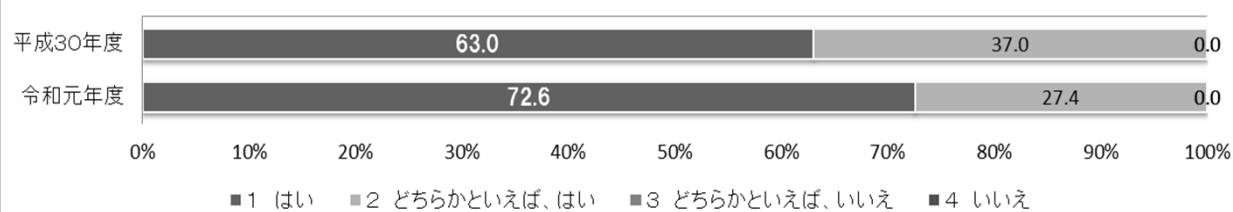
1 自分のよいところがわかり、自分の気持ちを大切にしていますか。(児童生徒)



1 お子さんのよいところが分かり、気持ちを大切にしていますか。(保護者)

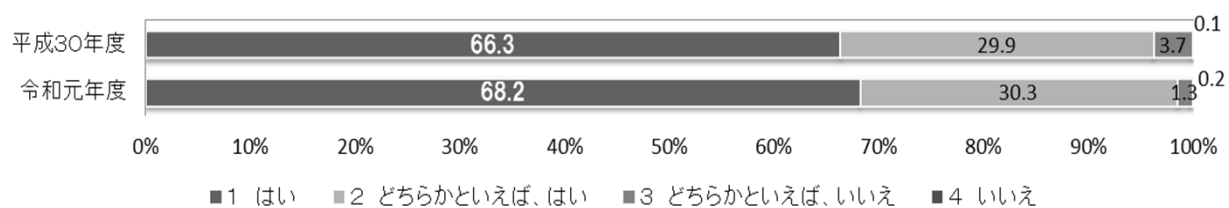


1 子どもたちのよいところを認め、気持ちを大切にしていますか。(教職員)

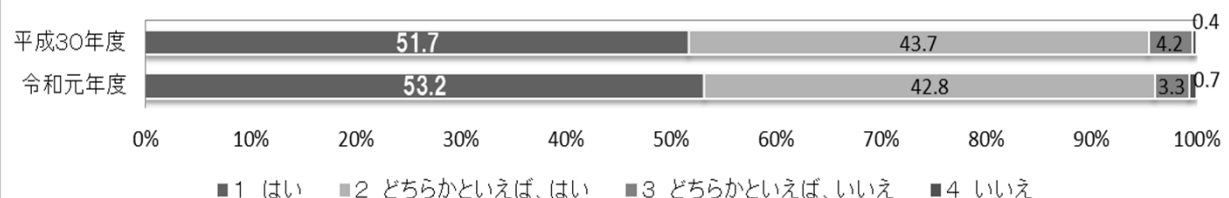


児童生徒の「自分のよさがわかり、自分の気持ちを大切にしている」と回答している割合が増えている。また、保護者、教職員のプラス回答の割合が増えている。

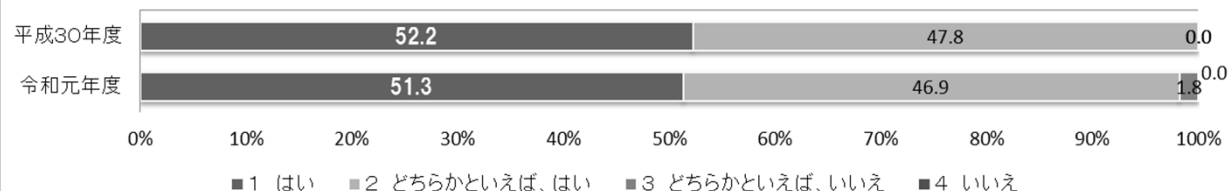
2 友だちのよいところがわかり、友だちの気持ちを大切にしていますか。（児童生徒）



2 お子さんに、友だちのよいところに気づかせ、「友だちの気持ちを大切にしてください。」と話をしていますか。（保護者）

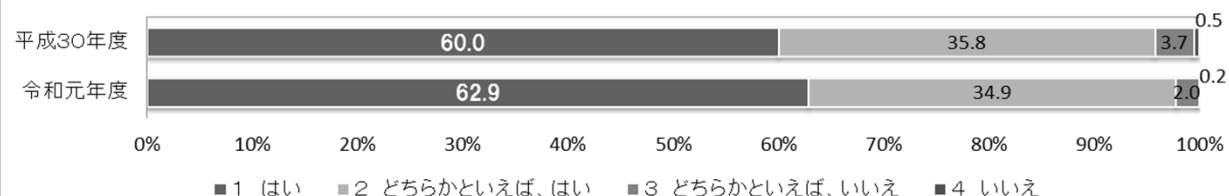


2 子ども同士のよいところに気づき、気持ちをつなげるような働きかけをしていますか。（教職員）

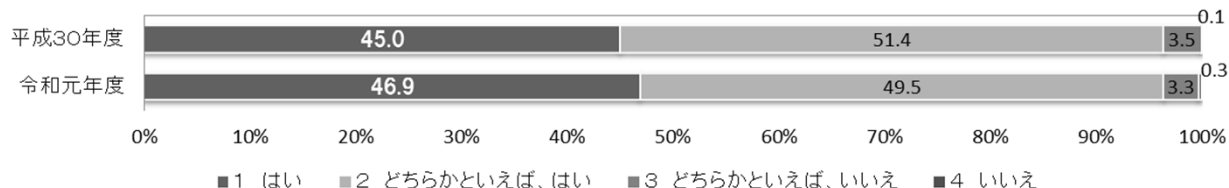


児童生徒の「友だちのよいところがわかり、友だちの気持ちを大切にしている」と回答している割合が増えている。自分はもちろん、他の人のよさについてもわかろうとすることはとても大切である。

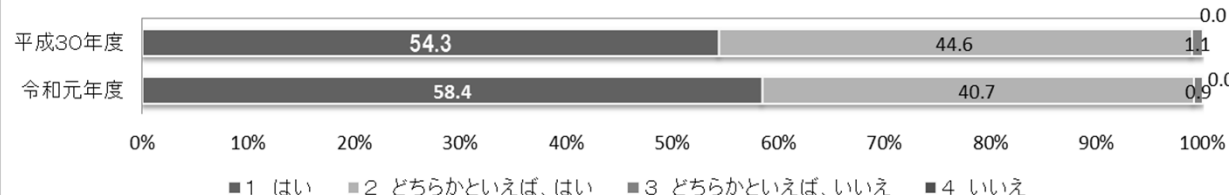
3 他の人の考えや立場を大切にしていますか。（児童生徒）



3 お子さんの話をよく聞いて、気持ちを理解しようとしていますか。（保護者）

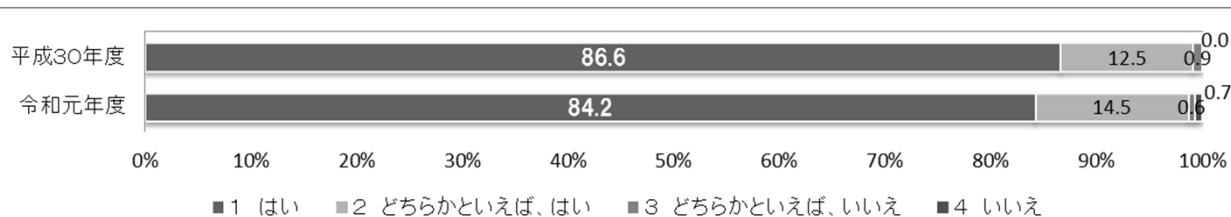


3 子どもたちの話をよく聞いて、気持ちを理解しようとしていますか。（教職員）

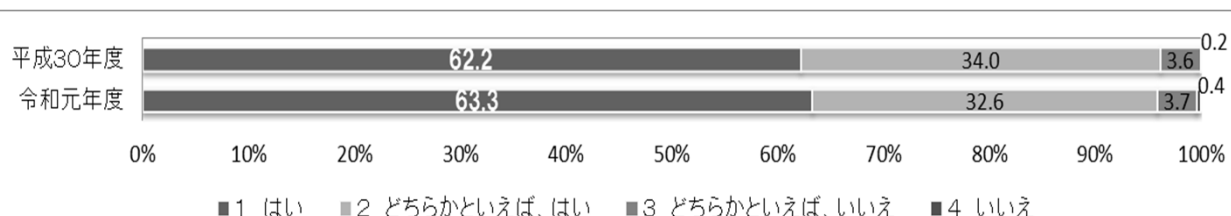


人の考えや立場を大切にすることは、人の話をよく聞き、その気持ちを理解しようとするところからはじまる。平成30年度と比べ、児童生徒、教職員のプラス回答の割合が増えている。

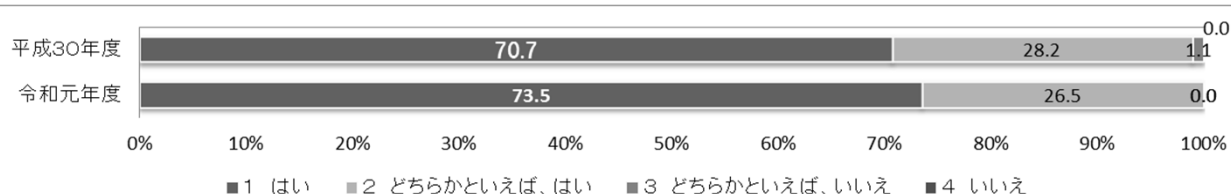
4 考えや感じ方には、人それぞれ違いがあってよいと思いますか。（児童生徒）



4 人にはいろいろな考えや感じ方があることをお子さんに話をしていますか。（保護者）

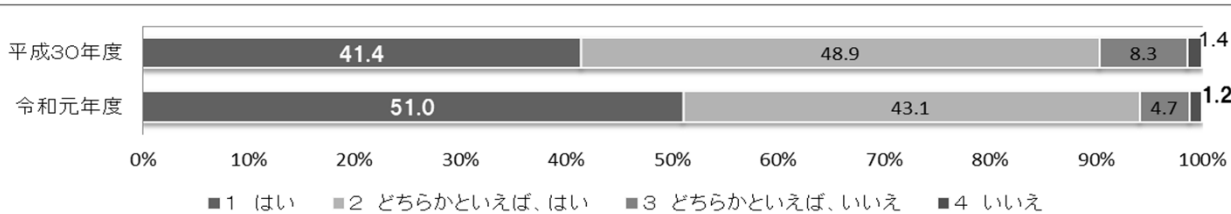


4 人にはいろいろな考えや感じ方があることを指導していますか。（教職員）

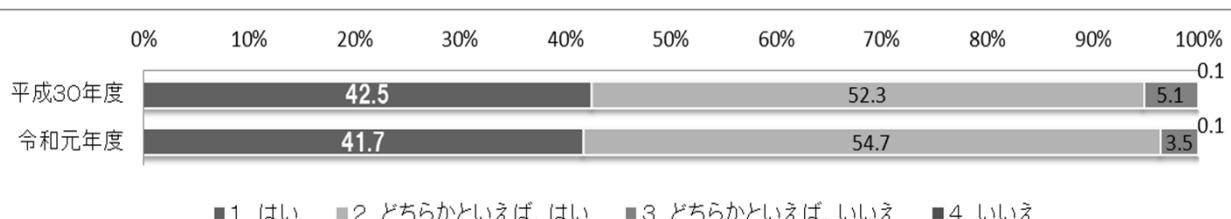


児童生徒は「考えや感じ方には、人それぞれ違いがあってもよい」と考える子がほとんどであり、そのよさについてもよく理解している。また、教職員はこのことについて全員が「指導している」と回答している。

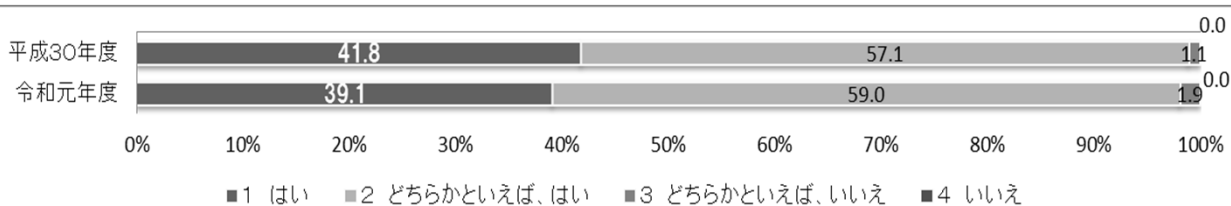
5 自分の考えや立場は大切にされていますか。（児童生徒）



5 家庭では、お子さんの考えや立場を大切にしていますか。（保護者）

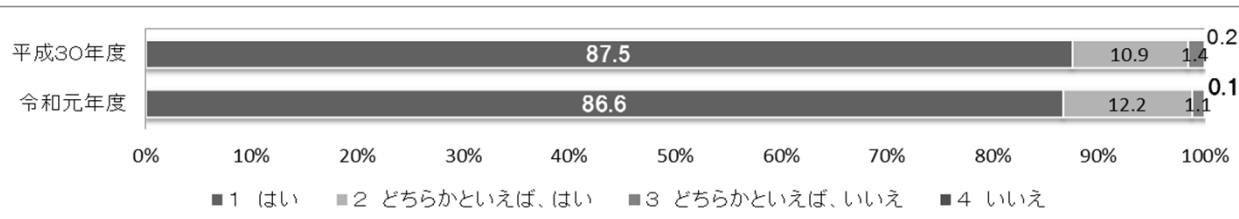


5 子どもたちの考えを大切にして、学級経営に生かしていますか。（教職員）

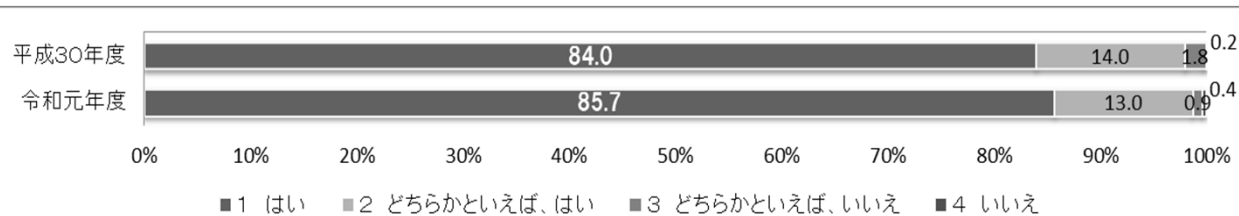


児童生徒の「自分の考えや立場は大切にされている」と回答する割合や保護者の「子どもの考えや立場を大切にしている」と回答した割合が増えている。

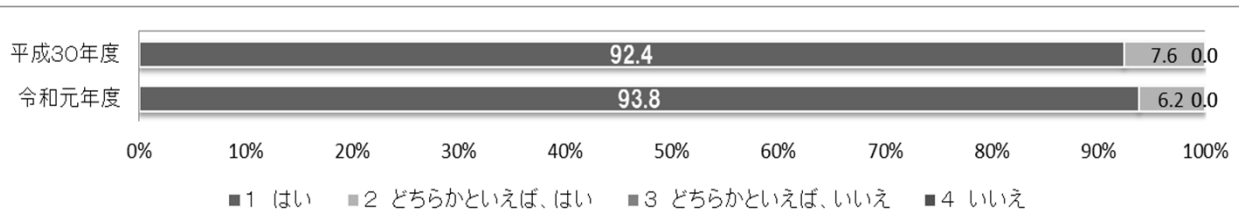
6 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。（児童生徒）



6 いじめは、どんな理由があってもしてはいけないことであることをお子さんに話していますか。（保護者）

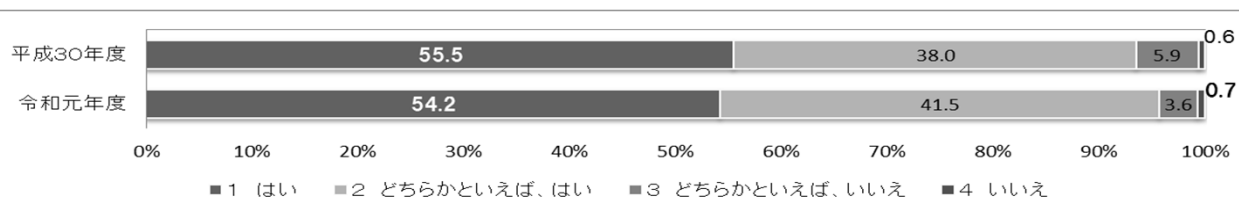


6 いじめは、どんな理由があっても決して許されないという指導を心掛けていますか。（教職員）

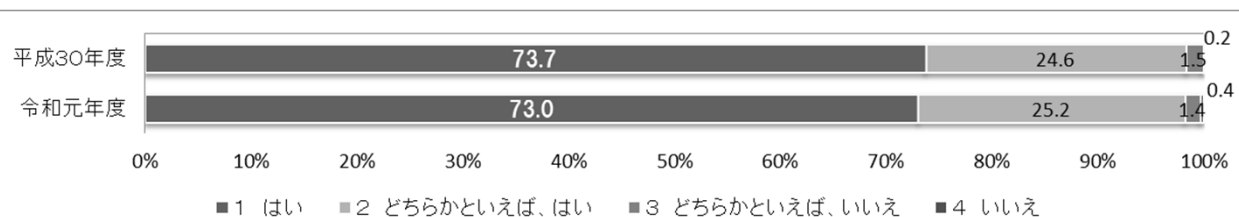


「いじめは、どんな理由があってもしてはいけない」と考える割合がほとんどであり、児童生徒、保護者ともにプラス回答の割合が増えている。また、教職員の全員が児童生徒に対し、「いじめは決して許されない」という指導を行っている。

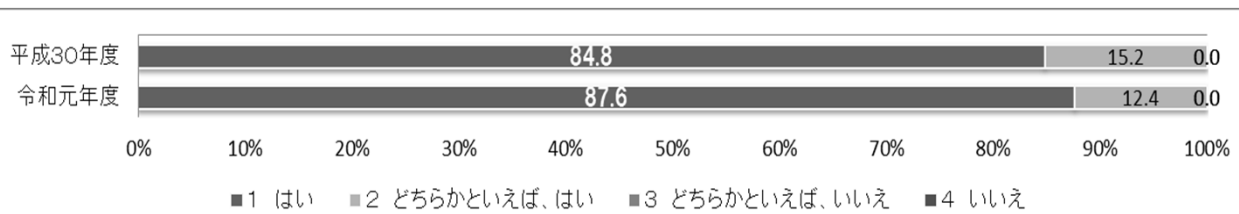
7 人が困っている時は、進んで助けていますか。（児童生徒）



7 他の人が困っている時、お互いに助け合うことが大切であることをお子さんに話していますか。（保護者）

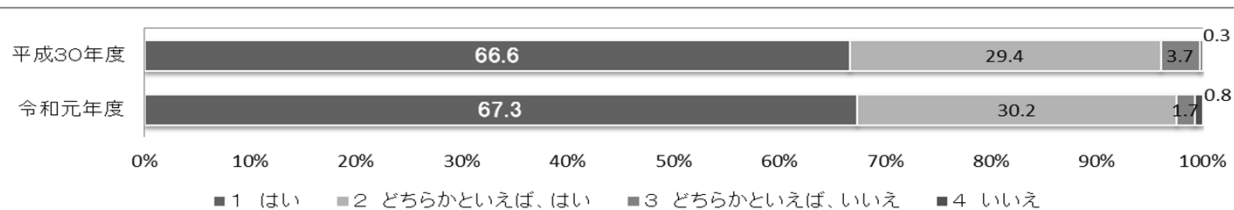


7 他の人が困っている時、お互いに助け合うことが大切であることを指導していますか。（教職員）

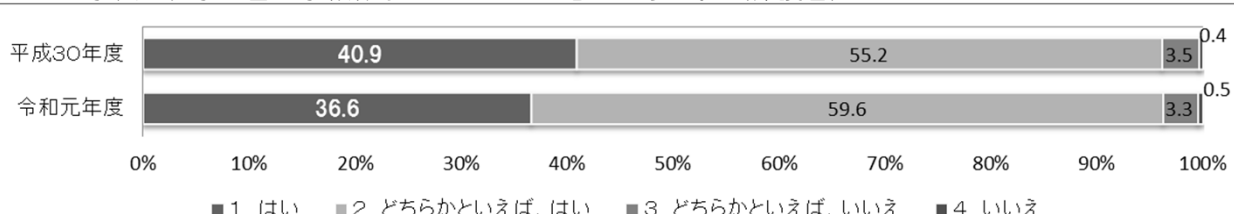


児童生徒の「人が困っていたら進んで助ける」と回答した割合が増えている。保護者、教職員もこのことについて、子どもたちによく話している。

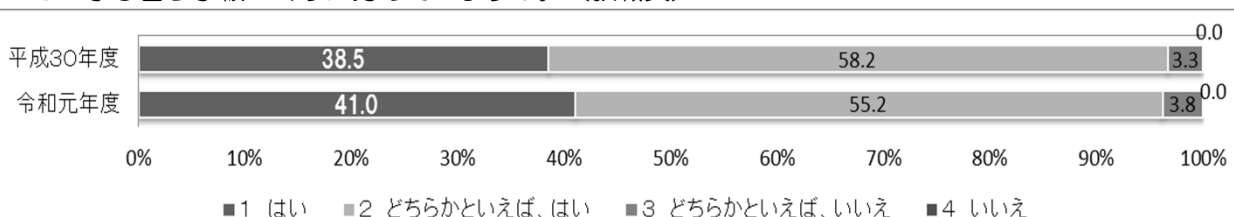
8 友だちのよいところに学ぶところがありますか。（児童生徒）



8 学校は、学び合う学級作りをしていると思いますか。（保護者）

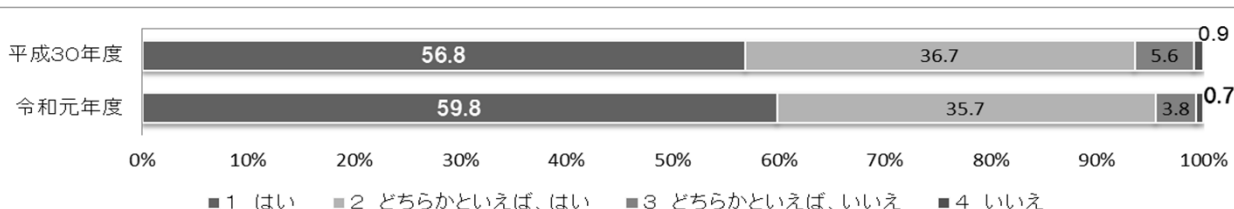


8 学び合う学級づくりに努めていますか。（教職員）

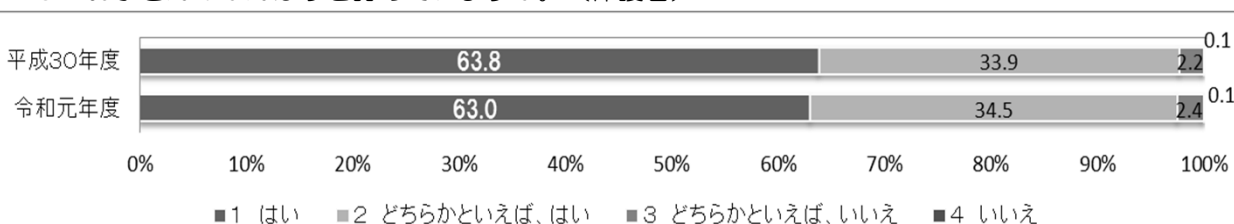


「学び合う学級づくり」は互いのよさを認め合うことにつながる。児童生徒の「友だちのよいところに学ぶところがある」と回答した割合も増えており、教職員も学び合う学級づくりに努めている。

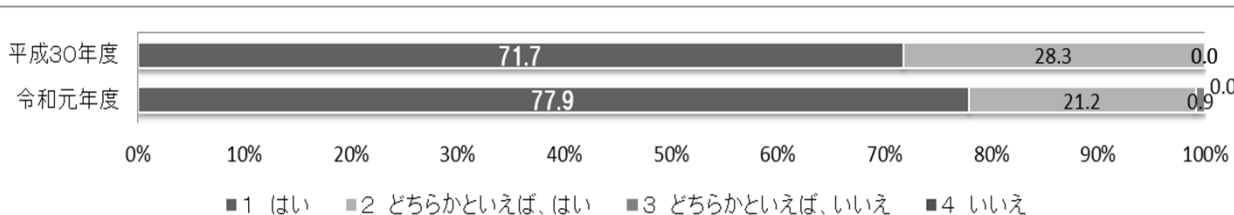
9 まわりの人（友だち、家族、学校の先生）は、あなたが、がんばったことを認めてくれますか。（児童生徒）



9 お子さんのがんばりを認めていますか。（保護者）

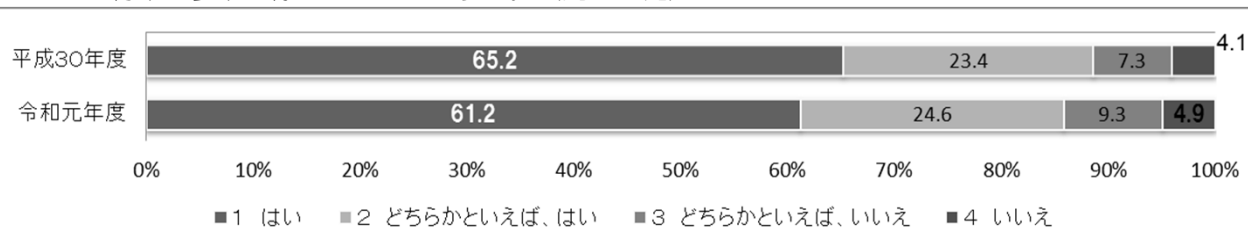


9 子どもたちのがんばりを認めていますか。（教職員）

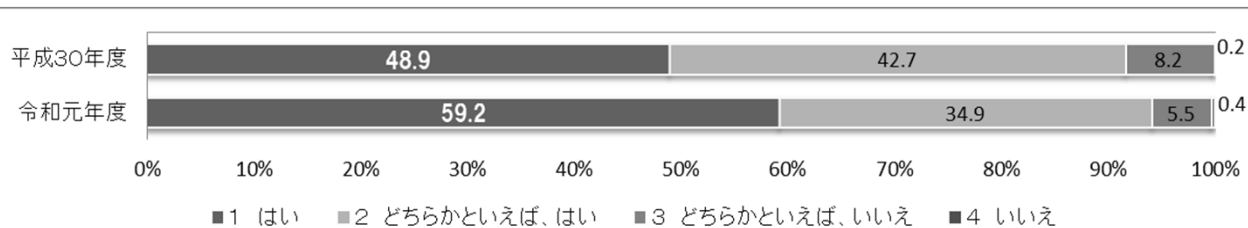


児童生徒の「まわりの人は、がんばったこと認めてくれる」と回答した割合が増えている。児童生徒のがんばりについては、保護者、教職員ともに、多くの人が認めていることがわかる。

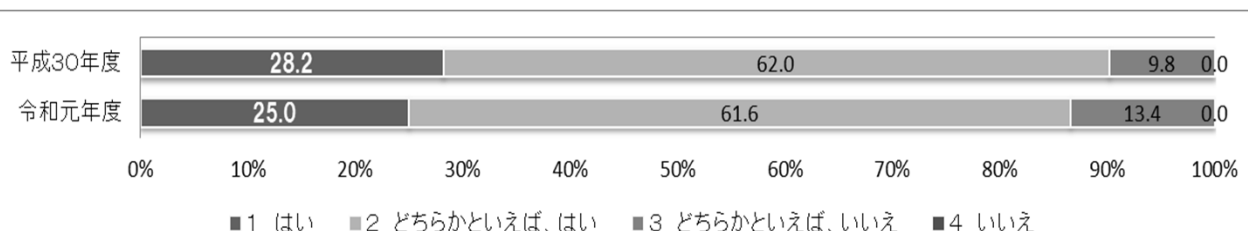
10 将来の夢や目標をもっていますか。（児童生徒）



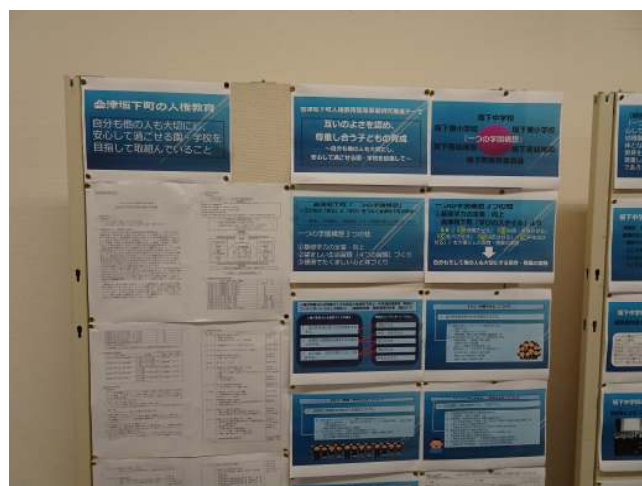
10 お子さんの将来の夢や目標の実現に向けて、前向きに話すようにしていますか。（保護者）



10 将来の夢や目標の実現に向けて、具体的な話をしていますか。（教職員）



児童生徒の「将来の夢や目標をもつこと」については、プラス回答が若干であるが減っている。今後も引き続き、児童生徒が将来の夢や目標をもち、生き生きとした生活を送ることができるよう、具体的な働きかけをより一層行っていきたい。



2 会津坂下町人権教育実践の記録

(4) 資料

- ① 「一つの学園構想」リーフレット
- ② 会津坂下町「学びのスタイル」
- ③ 人権が尊重される授業づくりの視点と会津坂下町「学びのスタイル」
教師のコーディネート『5K』の関わり
- ④ 「人権感覚」教職員チェックリスト



町の教育基本理念

生きる喜びを育む教育

～「学びあう」「競いあう」「認めあう」子どもの育成～

人と人、幼稚園・学校間のつながりで、子どもの「育ち」と「学び」をつなぐ

幼稚園
職場体験やボランティア活動等の機会を生かした幼児と生徒の交流

小・中連携
会津坂下町では、平成25年度から幼稚園2園、小学校2校、中学校1校の体制になりました。「一つの学園構想」には、新学校制に伴い新しい交流が始まり、新しい信頼関係が生まれ、新しい共同価値観を高めようという願いが込められています。町内の幼稚園・学校では、相互に連携しながら、「一貫性」「共通性」「継続性」のある12年間を、見通した「育ち」と「学び」をつなぐ教育に取り組んでいます。

小学校
家庭、保育所・小規模保育施設、幼稚園、学校、地域、行政がそれぞれの役割を大切に、一層の連携を図りながら、未来を創る「会津坂下町の子ども」を育てていきたいと思います。

中学校
会津坂下町では、平成25年度から幼稚園2園、小学校2校、中学校1校の体制になりました。「一つの学園構想」には、新学校制に伴い新しい交流が始まり、新しい信頼関係が生まれ、新しい共同価値観を高めようという願いが込められています。町内の幼稚園・学校では、相互に連携しながら、「一貫性」「共通性」「継続性」のある12年間を、見通した「育ち」と「学び」をつなぐ教育に取り組んでいます。

行政
効果的な連携を目指す
支援・啓発

家庭
基本的な生活習慣の確立

保育所・小規模保育施設
情報の安定と緊密関係の構築

地域
地域で子どもを健全育成

子育て支援日本一を目指した 「一つの学園構想」

～子どもの「育ち」と「学び」をつなぐ会津坂下町の教育～

会津坂下町立坂下中学校
<http://www.town.aizubange.fukushima.jp/bangecy/>

会津坂下町立坂下南小学校
<http://www.town.aizubange.fukushima.jp/bangeminamiyo/>

会津坂下町立坂下東小学校
<http://www.town.aizubange.fukushima.jp/bangehigashiyo/>

会津坂下町立坂下南幼稚園

会津坂下町立坂下東幼稚園

会津坂下町教育委員会

会津坂下町教育委員会
〒969-6547
〒969-6547
〒969-6547
〒969-6547

TEL 0242-84-3711 FAX 0242-83-7500
TEL 0242-84-3711 FAX 0242-83-7500
TEL 0242-84-3711 FAX 0242-83-7500
TEL 0242-84-3711 FAX 0242-83-7500

E-Mail: kyokoku@town.aizubange.fukushima.jp
E-Mail: kyokoku@town.aizubange.fukushima.jp
E-Mail: kyokoku@town.aizubange.fukushima.jp
E-Mail: kyokoku@town.aizubange.fukushima.jp

「一つの学園構想」の柱

“一貫性” “共通性” “継続性” で「育ち」と「学び」をつなぐ

望ましい生活習慣(4つの習慣)づくり

① 規則正しい生活習慣づくり

家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん運動」の推進により、基本的な生活習慣を身に付けさせます



② 家庭学習習慣づくり

学校に於いて内容を充実させるとともに、家庭と連携し家庭学習の習慣化を図ります



③ 読書習慣づくり

家庭・地域と連携した読書活動やメディアコンロール（※1）の取組等を進め、読書の習慣を身に付けさせます



④ あいさつ習慣づくり

幼稚園・学校と連携・地域との連携による「あいさつ運動」等を通して、明るく元気なあいさつができる子どもに育てます



※1 メディアコンロール
子どもがメディアに接する際に、保護者や学校がその内容や利用の仕方について適切な指導を行うこと

基礎学力の定着・向上

① 学び楽しさを実感する「学びあう授業」の実践

日々の授業を充実させ、学び楽しさを実感する「学びあう授業」を実践します



② 特別支援教育の充実・強化

支援員の活用や進級による指導の工夫等により、特別な支援を要する子どもの学びの充実を図ります



③ 教職員の指導力(保育力・授業力)向上

研修の充実、指導士（※2）の活用等により、教職員の指導力向上を図ります



④ 「基礎学力向上推進会議」の機能化

学力向上の土台づくりに向け、町内全ての教員が所属する会議の取組内容を充実させます



※2 指導士
新採用教員に重点的に指導を受ける職員で、学習指導そのほか教員に関する専門的事項の指導に資する上にも活用する

健康でたくましい心と体づくり

① 道徳教育の充実

幼稚園・学校（学校給食センター）と町・市が連携して食育の充実を図り、望ましい食習慣を身に付けさせます



② 食育の充実

幼稚園・学校（学校給食センター）と町・市が連携して食育の充実を図り、望ましい食習慣を身に付けさせます



③ 体力づくり

幼稚園・学校の体力向上計画に基づいた取組を進めるとともに、「歩育」（※3）を推進し、子どもたちの体力向上を図ります



④ 健康教育の充実

健康教育を充実させ、「うがい、手洗い、歯磨き、フッ化物塗布」等の習慣化による疾病予防と健康保持に努めます



※3 歩育
学校による運動・遊学等の習慣化を促し、行事などにおける歩行体験を通じて、子どもの体力向上と生活力を育む

幼稚園 小学校 中学校

幼稚園・学校で、3つの柱・12項目を意識した取組を推進

◇各項目については、より具体的な実施内容を決めて取り組んでいきます。

家庭・保育所・小規模保育施設 ◇「一つの学園構想」の取組の基盤を作ります。

十二年間を見通した、教育の展開

資料② 会津坂下町「学びのスタイル」

会津坂下町「一つの学園構想」取組の柱
「1基礎学力の定着・向上」
①学ぶ楽しさを実感する「学びあう」授業の実践

会津坂下町「学びのスタイル」

教科や学年、学習内容によって応用しながら実践します。 会津坂下町基礎学力向上推進会議
会津坂下町教育委員会

過 程	学習活動・児童生徒の姿	指導のポイント	小・中共通実践事項 これだけは！
導入	つかむ ◎ 課題の意識化 → 学習課題・学習のめあて（本時のゴール）をつかむ（何が、どのくらいできるようになればよいのか分かる） → 追究する価値があると感じ、追究しようとする意欲がわく	○ 問いや学習意欲を引き出す教材提示や活動の工夫 ○ 「先生の教えたいこと」から「児童生徒の学びたいこと」へ ○ 学習課題・学習のめあての提示	学習課題・学習のめあての明示 教師のコーディネート
	見通す ◎ 課題に対する見通し（予想）をもつ → 予測し解決の方法や見通しを持つ（ゴールに向け、「何を」「どう」考えていくのか分かる） 考える ◎ 自力解決する → 既習事項等を生かして考えていこうとする → 自分の考えを持つ（書く） → 考えの根拠を持つ	○ 見通しを持たせる手立ての工夫 ・ 既習事項の活用 等 ○ 自分の考えを持たせる時間の確保 ○ 個に応じた指導・支援 ・ 自力解決が早く終わった子どもへの指示 ・ 自力解決が不十分な子どもへの支援 ・ その後の授業へ生かす、意図的な机間指導 ・ 一人でできない場合は、困ったことを共有させたり、友達と交流させたりする。	● 5K 「活躍させる」 「共感・共有させる」 「比べさせる」 「決定させる」 「声を出させる」 ● 思考を働かせる活動や発問により、考えをつなげる・広める・深める ・ 友達の考えやその続きを考えさせる ・ 発表の内容について、もう一度説明させたり書かせたりする ・ 意見の相違点、同じ意見の中の根拠の相違点を吟味する 等 「どういうこと？」 （事実・事柄） 「どうやって？」 （方法・手順） 「どうして？」 （理由・根拠）
展開	深める ◎ 学び合う ○ 考えを共有する → 自分の考えと比べながら友達の考えを聞いたり、意見を述べたりする。 → 思考過程や結果を共有する ○ 考えを吟味する → 自分や友達の考えの中からよりよいものを吟味し合い、自分の中で再構成する ◎ 教科によっては、適用問題を解く	○ 目的、内容、時間に合わせた形態の工夫（ペア・小グループ、学級全体等） ○ ペア・小グループ学習を機能させるための経験の積み重ね ○ 話し合いの視点の明確化 ・ 意見（考え）の正否 ・ 根拠の適否 ・ 理由の適否 ○ 考えをまとめる	思考力を育てる構造的な板書 ● 子どもの思考の過程を残す ● 色分け、矢印、吹き出し、アンダーライン等で思考の流れを可視化する
	まとめる ◎ 学習の振り返りと変容の自覚 → 学習課題・学習のめあてに沿って、自分の言葉で振り返る → 自分の達成度・理解度を判断する → もっと学習したいことや新たな疑問を見つける	○ キーワードの提示 ○ 振り返り ・ 何を（内容）、どのように考え（思考過程）、そこから何を理解し（意味）、何を見いだしたか（価値）の実感 ・ 友達と学ぶよさの実感 ○ 次時への意欲付け	まとめる ● 「学習課題・学習のめあて」に沿って、自分の言葉でまとめさせる
終末			

整合性

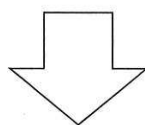
家庭学習

◎ 「授業の学びが生きる」「学習課題につながる」学習等で、授業と宿題をつなぐ

資料③ 人権が尊重される授業づくりの視点と
会津坂下町「学びのスタイル」教師のコーディネート『5K』の関わり

会津坂下町「学びのスタイル」より

5K（「**か**活躍させる」「**き**共感・共有させる」
「**く**比べさせる」「**け**決定させる」「**こ**声を出させる」）を大事にした保育・授業の実践



自分もそして他の人も大切にする保育・授業の実践

人権が尊重される授業づくりの視点と会津坂下町小・中共通実践事項「教師の
コーディネート 5K」の関わり 【義務教育課 藤原謙指導主事 講話より】

- 1 自己存在感を持たせる支援を工夫する。
- 2 共感的人間関係を育成する支援を工夫する。
- 3 自己選択・決定の場を工夫して設定する。

活躍させる

共感・共有させる

比べさせる

決定させる

声を出させる

5 K①「活躍させる」について

1 自己存在感を持たせる支援を工夫する。

A「授業に参加している」という実感を持たせる。

- ・座席の工夫
- ・発問・応答のパターンの工夫
- ・既習事項・興味・関心の把握と課題設定 等

B「自分が必要とされている」という実感を持たせる。

- ・意図的指名 ・最後まで聴く習慣
- ・誤答を大切にする習慣
- ・協力して活動できる場の設定 等

C 教師自身が一人一人を大切にする姿勢を示す。

- ・目を見て話し、話をよく聴く姿勢
- ・発言しない児童生徒への配慮
- ・称賛、励ましの言葉かけ等



5 K②「共感・共有させる」について

2 共感的人間関係を育成する支援を工夫する。

D「自分が受け入れられている」と実感できる雰囲気をつくる。

- ・「誰にでも失敗は...」「誰もがよさや弱さを...」という認識の共有 ・自由に発言できる雰囲気づくり
- ・教師の意図と異なる考えへの配慮

E「共に学び合う仲間だ」と実感できる雰囲気をつくる。

- ・自分の考えと異なる意見や感情を拒絶せず、理解する態度の育成
- ・互いの役割や責任を認め合う態度



5 K③④「比べさせる」「決定させる」について

3 自己選択・決定の場を工夫して設定する。

- F 学習課題や計画を選択する機会を提供する。
 - ・課題選択、学習への見通し 等
- G 学習内容、学習教材を選択する機会を提供する。
 - ・自分の習熟の度合いや興味・関心に基づいて選択する機会の設定の選択 等
- H 学習方法を選択する機会を提供する。
 - ・児童生徒の実態や学習内容に応じた様々な学習方法の提示等
- I 表現方法を選択する機会を提供する。
 - ・相手や内容に応じた多様な表現方法、スキルの提示 等
- J 学習形態や場を選択する機会を提供する。
 - ・多様な学習形態の設定 ・学習場所を選択する機会の設定等
- K 振り返りの方法を選択し、互いの学びを交流する機会を提供する。
 - ・多様なまとめ方の提示 ・振り返りと交流する時間の設定

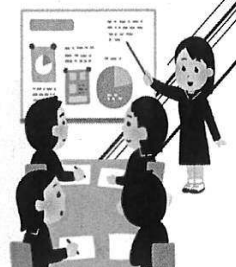


5 K⑤「声を出させる」について

- 学習課題・めあての明示
- ペアやグループでの話し合い
- 書く活動、まとめる活動、自己を見つめる活動の設定
- 構造的な板書の工夫
- 迷いや葛藤を生み出すゆさぶりの発問
- 見通しをもつ場と振り返りの場の設定
- 教師の働きかけと問い返し 等

子どもの内なる声（心の中の言葉）に耳を傾けて認め、引き出そうとする教師の姿勢の大切さ

- ☐ 共有させるための教師の働きかけの例
 - 【予想】「○さんの式の意味を説明できますか」
 - 「○さんの考えの続きが言えますか」
 - 【再生】「○さんの説明をもう一度言えますか」
 - 【換言】「○さんの考えを別の言い方でも言えますか」
 - 【要約】「○さんの考えを簡単に言えますか」
 - 【共感】「○さんの気持ちが分かりますか」
 - 【発見】「○さんの考えのよいところはどこですか」
 - 【補助】「○さんの考えのヒントが言えますか」
- ☐ 考えを深めるための問い返しの例
 - 【事実】「どういことですか」
 - 【方法】「どのように考えたのですか」
 - 【理由】「どうしてそうなるのですか」 など



資料④ 「人権感覚」教職員チェックリスト

人権感覚 教職員チェックリスト

～ あなたの人権感覚をチェックしてみましょう ～

会津坂下町教育委員会

教師と子どもとの関わり

【確かな幼児・児童・生徒理解に基づき、一人一人を大切にしたい指導を行っているか】

チェック	No.	内 容
	1	登下校、登降園時に、幼児・児童・生徒に率先して言葉掛けをし、温かく送り迎えをしているか。
	2	朝の会等で、幼児・児童・生徒の心身の健康状態、様子、変化をしっかりと把握しているか。
	3	幼児・児童・生徒が、互いの意見や作品等のよさを認め合うことができるような具体的な取組を行っているか。
	4	板書をする時の文字の色や大きさ等、見えにくくならないように配慮した板書を心掛けているか。
	5	幼児・児童・生徒のいじめ等による変化を見逃さず、学年や学校全体で情報を共有できるよう報告等をしているか。
	6	幼児・児童・生徒に対し、一方的な思い込みや偏った見方ではなく、確かな事実や根拠を基に指導しているか。
	7	欠席した幼児・児童・生徒に対し、学校からの連絡内容が確実に伝わるよう配慮しているか。
	8	体罰や不適切な行為を未然に防止するために、日常の指導の在り方について相互に点検を行っているか。
	9	幼児・児童・生徒に対してセクシャル・ハラスメント等をおこさないように、教師間で確認し合いながら自己点検を行っているか。
	10	幼児・児童・生徒の名前を呼ぶ時に、敬称をつけて呼んでいるか。
	11	幼児・児童・生徒を指導する際、人格を否定するような注意はしていないか。
	12	幼児・児童・生徒同士やきょうだいと比べて、誉めたりけなしたりしていないか。
	13	幼児・児童・生徒の欠点を見つけようとせず、よさに目を向けるように努力しているか。
	14	「がんばれ」ばかりでなく、「がんばっているね」など、幼児・児童・生徒の努力を認める言葉がけを行うよう心掛けているか。
	15	幼児・児童・生徒同士の相手に嫌な思いをさせるような言葉や暴言、あだ名での呼び方等を見過ごし、黙認していないか。

教室環境

【一人一人の幼児・児童・生徒を大切にするという視点で、教室の整理・整頓をはじめ、掲示物や物品等の教室環境を整えているか】

チェック	No.	内 容
	16	幼児・児童・生徒の作品に誤字・脱字があった場合、修正をさせてから掲示しているか。
	17	教室や廊下の黒板や壁などに落書きや破損等がないよう気をつけているか。
	18	忘れ物などをした幼児・児童・生徒の名前を目のつくところに書き出していないか。
	19	教室は、学習がしやすいように整理・整頓されているか。
	20	学習で使用する教材・教具や設備等を誰もが公平に使えるように配慮しているか。

3 研究のまとめ



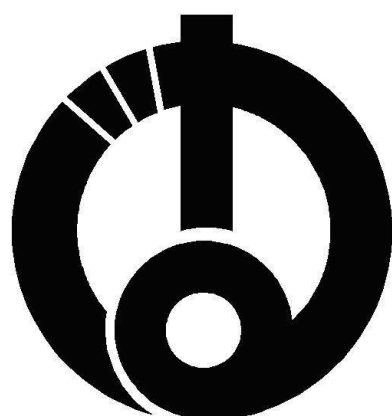
3 研究のまとめ

(1) 成果

- 教師が人権を意識し、一人一人を温かく受け入れてきたことで安心して生活し、様々なことに興味・関心をもつことができるようになった。
- 一つの学園構想のもと、幼稚園、小学校、中学校、高校などとの異校種間の連携や交流を活発に行うことで、互いに思いやりの気持ちや優しい気持ちをもって接することができ、自他を大切にする人権意識が高まった。
- 町人権擁護委員と人権の花運動を町内全ての幼稚園・小中学校で実施した。みんなで協力しながら花の栽培を行うことで、生命の尊さを実感し、豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得させることができた。
- 自分や自分に関わる人のよさについて気づいていくことは学校だけでは難しい。地域や家庭、他の園や学校と連携や交流を進めることで、互いのよさを知り、認め合い、尊重し合う子どもを育成することができる。町内の幼稚園・小中学校、家庭・地域が一体となって子どもたちを育て、見守ってきたことで、自他のよさを知り、互いに尊重し合う子どもを育成することができている。
- 人権が尊重される授業づくりの視点と町「学びのスタイル」教師のコーディネート5Kを意識した授業づくりは関連しており、町「学びのスタイル」を意識した保育・授業を町内幼小中の全教員が行うことで、自分もそして他の人も大切にする保育・授業を実践することができている。
- 人権教育講演会や授業研究会を開催することで、教員の人権教育に関する理解が深まった。
- 人権教育推進のためのリーフレットや人権啓発カラーホルダーを作成し、町内幼小中全園児・児童生徒に配布することで、本町の人権教育に関する意識を高めることができた。
- 2年間にわたり、町内小学3年生～中学3年生、町内小中学校保護者、町内幼小中学校教職員計 3504人（H30:1790人 R元:1714人）を対象に人権に関するアンケート調査を実施することで、町内の人権に関する意識とその変化について把握することができた。

(2) 課題

- これまで、様々な人権教育推進の取組を行い、成果を上げることができたが、今後も一人一人が安心して過ごせる園・学校をつくるために、幼稚園、小中学校、そして家庭・地域が一体となって人権を意識した取組を継続して行っていきたい。
- 2年間の取組により、教職員、園児、児童生徒の人権意識が芽生えてきている。今後もさらに、自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識や意欲を育て、具体的な態度や行動に現れるようにしていきたい。
- 今後も継続して、普段の授業から町内の全教員が町「学びのスタイル」教師のコーディネート5Kを意識した授業づくりを実践し、一人一人を大切にしたい全員参加型の授業づくりを行えるようにしていきたい。



**笑顔あふれるまち、
あいづばんげ**